ポケットモンスター
SPECIAL
50
山本サトシ
日下秀憲
©2014 Pokémon
©1995-2014 Nintendo/Creatures Inc./GAME FREAK inc.

POCKET MONSTERS

59

SPECIAL

• Art •

Satoshi Yamamoto

• Story •

Hidenori Kusaka

このお話は――

権威ある研究者より「ポケモン図鑑」を託された少年・少女〜図鑑所有者たち〜がポケモンと共にすごし、戦い、成長する物語である――!!!!

WHITE

いつかの時代、どこかの場所。
ポケモンリーグ優勝を夢見るトレーナー・ブラックが、アララギ博士から「ポケモン図鑑」とポカブを受け取り旅立った!
旅の途中、目の前でプラズマ団にジムリーダーたちとダークストーンを奪われたブラックは、打倒プラズマ団を誓いハチクの修業へ。7つ目のバッジとライトストーンを入手するが、リーグの繰り上げ開催が決定してしまう。途方に暮れる中、Nとアデクの野試合に遭遇したブラックはNに戦いを挑むも、ムシャが離れ去ってしまう結果に。
不穏な空気の中、いよいよポケモンリーグの幕が開く!!

ホワイト

ポケモン芸能事務所「BWエージェンシー」の社長。一流のポケモンタレントを育てることが夢。仕事に対する責任感が強く、「タレント」のためならどんな苦労もいとわない。

シャガ

ソウリュウシティの市長兼ジムリーダー。ドラゴンタイプの使い手。

ハチク

セッカシティジムのジムリーダー。常に寡黙で冷静沈着な人物。

近代的な発展をとげた、巨大な地方。いくつもの橋で結ばれた数かずの街がある。中央には摩天楼がそびえ立つヒウンシティがあり、地方全体のシンボルにもなっている。

ブラック

ポケモンリーグ優勝を目ざすトレーナー。先々までよく調べ、準備する計画性と、心に火がつくと止まらない熱血性を併せ持つ。また、目で見た情報を頭の中で組み立て、真実を見つけ出す"推理タイム"を特技とする。

N

プラズマ団の王。「理想」のためにゼクロムを復活させたが…？

アララギ博士(娘)

カノコに住む、女性ポケモン研究者。ブラックたちにポケモン図鑑を託した。

アララギ博士(父)

イッシュ地方のポケモン研究の権威。ダイケンキを連れてNとの戦いに参戦。

アイリス

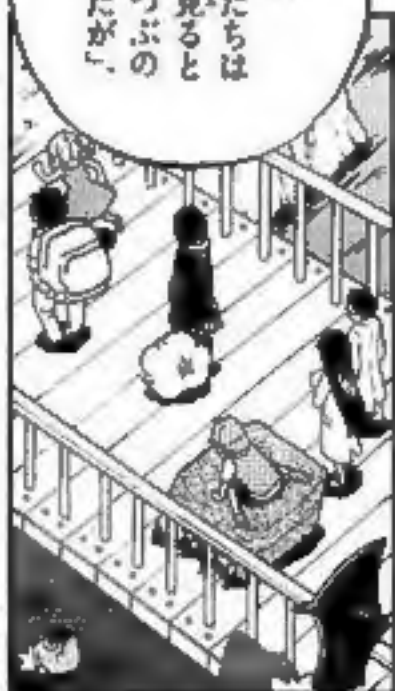
ドラゴンタイプを極めるため、シャガのもとで修業をしていた活発な少女。

POCKET MONSTERS SPECIAL 50

もくじ

POCKET MONSTERS SPECIAL
The Tenth Chapter
BLACK&WHITE
#511
VSゴチルゼル
GOTHIRUSELLE
「開幕（かいまく）」

パラパラ
ポン
ポン
「打ち鳴らされる花火が宴の始まりを告げていました」。
ザワ
ザワ
ザワ
「集まった多くの人たちは上空から見るとまるで砂つぶのようでしたが」。
「その一つ一つは燃えるようなエネルギーを秘めていて」。

「式場全体が情熱の集合体」、
「そんな表現が似合いそうなその日のイッシュ地方でした」。
どうですか？ギーマさん。
悪くはないんじゃないか？
て・す・よ・ね〜！なにごとも「出だしが大事」ですから！
とはいえシキミ、物事の判断は最後の1行を読むまではできない。
まずは完結させることだ。
ぶ〜〜〜!!
あの人のことだってそうだ。

プラズマ団の王との野試合で敗北したそうですね。
あのアデクさんが

そして、
その場から姿を消し、チャンピオン不在のままリーグ開催だ。

遅かれ早かれこうなっていたでしょう。

これまでも、「リーグは四天王にまかせたからわしは自由気ままにさせてほしい」と言っていた人です。
カトレアさん！

ただ…、チャンピオンの敗北がイッシュの人びとの心を動揺させ、不安にさせていることは、気になります。

うむ、
たしかに例年よりも、観客の数が激減している。

いつものリーグと同じように、

挑戦者とポケモンバトルをして、

圧倒的な実力を見せるのみ。

四天王シキミ
タイプ：ゴースト
職業：小説家

四天王ギーマ
タイプ：あく
職業：ギャンブラー

四天王カトレア
タイプ：エスパー
職業：？

本当にそれで
いいのか!?

いつもならば
わたしもそう
考えたろう!

だが今回は
プラズマ団が
関わっている!

四天王レンブ
タイプ・かくとう

今ここで
ハッキリさせたい!

われわれ四天王の
敵に対する
スタンスを!!

わたしは当然
対決姿勢だ!!

ヤツらを見つけ出し、
野望をくい止める!!
なんとしても!!

シキミはどうだ!?

プラズマ団と四天王の超絶バトル!!
スッテキな小説の題材になりそ～～～!!

まったく四人四様意見はバラバラ。
強者が集結するということは、それだけ強い個性がぶつかり合うということか。

そもそもアデク自身が・
負けたわしは出る幕なしじゃろ。リーグは4人にまかせたぞ!

しかたあるまい。
協力は望まん。

待ってください。

プラズマ団にも自由はあると言いましたが、
だからといって放っておくわけにもいかないことが1つ。
彼らは人質をとっています。
このことだけはなんとかしないと…。
捕われのジムリーダーたちのことか!?
なんとかするとはいったい!?

エスパーの…、
力!!

……以上の31名が本選参加者だ!!

明朝、組み合わせ抽選ののち、この31名によるトーナメントをスタートする!!

諸君の健闘をいのる!!

以上、パッシチェックゲート前から、シャガ市長による開会のあいさつでした!!

どう?
ハイ。
ずっと
この状態です。

ムリもない、
幼い頃から
ずっと
かわいがっていた
1匹が、
あっさりと
去っていったん
だからな。

以前にも
4番道路で
こんなことが
ありました

でも、今回は
あの時とはまた
ちがうみたい。

ム
ムシャ。
ムシャ…!

ムシャ!

ムシャー!!

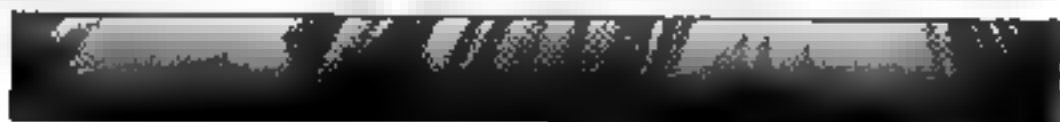
ムシャ!!

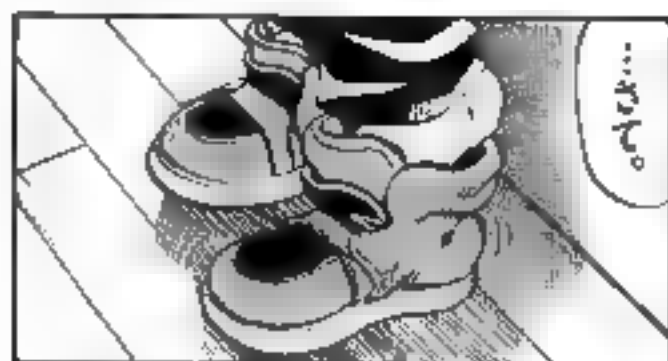
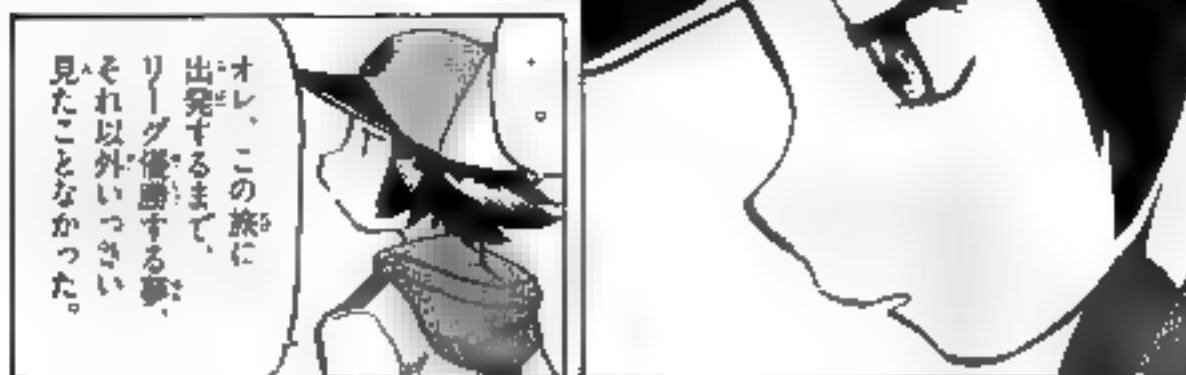
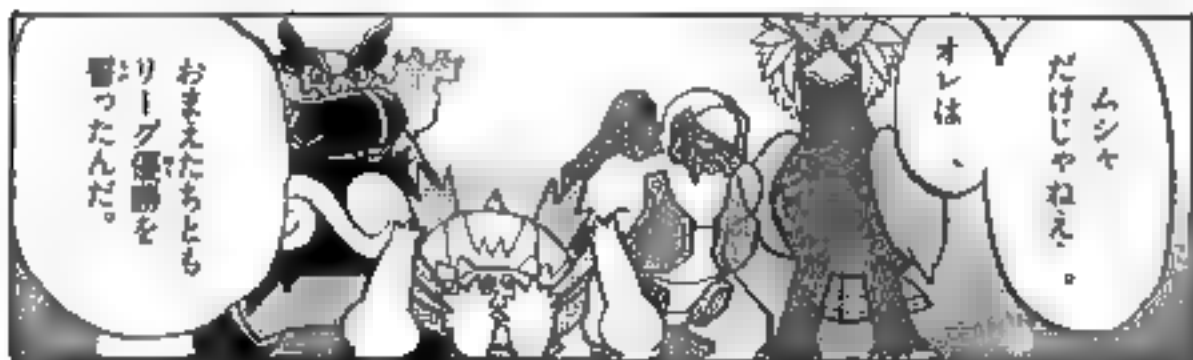
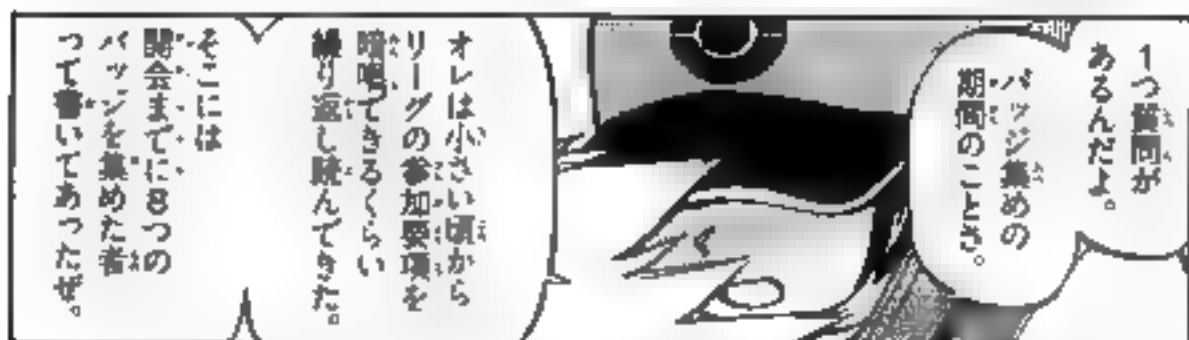
ホントなのか!?
ホントにおまえはオレの頭から出る「夢」を食べたかっただけなのか!?

そのためだけにそばにいたのかよ!?
おまえにとってオレはただの「うまいエサ」だったのか!?

そのエサがまずくなったからオレは価値がなくなって、
それでオレの元から去ってったのか!?

それ以外にオレたちの間にはなにもなかったってえのか!?

気持ちなんて
通じてなかった…、
絆なんてなかったってえのかよオオオオ!!

聞いたわね。
ここアララギ博士の研究所でも3匹が用意されてて、

しかも、それがプラズマ団に襲撃されて、
ちりぢりになってたなんて。

時期は十年前とおっしゃってましたね?

アタシが偶然ぷぷちゃんと出会ったのも、
ちょうど同じ頃の大雨の日でした。

それにしてもNのヤツ、子どもに化けたゾロアを使ってわたしの研究所を監視していたなんて、ホントなのかしら?

本当だよ。

ひ…!!

ブラックくん!!

オレ、ヒウンでもホドモエのはね橋でもゾロアが化けた少年に会ったからな・・・。

はね橋じゃ、ヤツのイタズラでひどい目にあったし、
これ はずれないよ
今、思うとライモンジムでジェットコースターが暴走したのもアイツの仕業かもな。

………。

…さて。

どこ行くの!?ブラックくん!

帰るのさ。カノコタウンへ。

ええ!?

そんな！
ここまで
やって
きたのに!!

Nの言葉に
惑わされないで!!
同じ目にあった
アタシだからわかる！

自分の「夢」を…、
自分のこれまで
してきたことを
信じて!!

夢…。

今…オレ、
夢を見てた。
不思議な形の木が
ぐるぐる伸びてる
草っぱらで
そこでムンナを
必死で呼び止めてる
そんな夢。

この前見たのは
トルネロス、
ボルトロス、
ランドロスに
襲われる夢。
その前は、
ハチクさんに
だまされて
ダークストーンを
奪われる夢だっけ…。

オレ、この旅に
出発するまで、
リーグ優勝する夢、
それ以外いっさい
見たことなかった。

そんなオレが、
シンプルに…、
ただシンプルに
リーグ優勝だけ
夢見てきたオレが・
プラズマ団？
謎のストーン？
伝説のポケモン？

いつの間にか
理解を越えた
スケールのでっかい
あれやこれやに
のみこまれてき…。
正直…もう、
わけが
わかんないんだよ。

ブラック
くん…。

ムシャがおいしいって
感じるような
「まじりっけのない夢」
は・・
今のオレの
頭の中にはない…。
Nの言ったとおり、
「真実」じゃないか。

どうせ
バッジも7個しか
集められなかったし、
帰るしかないんだ。

ポケモンリーグ
開会式
LIVE

出場者が…、

バッジチェックゲートをくぐっていく…。

ポケモンリーグ開会式
LIVE

お・・・、
おまえたちも・・・。

ムシャだけじゃねえ・・・。
オレは、
おまえたちともリーグ優勝を誓ったんだ。

・・・なのに・・・。
オレは
オレは・・・。

行くぞ!!

1つ質問があるんだよ。
バッジ集めの期間のことさ。
オレは小さい頃からリーグの参加要項を暗唱できるくらい繰り返し読んできた。
そこには開会までに8つのバッジを集めた者って書いてあったぜ。

屁理屈だってことはわかってら、シャガさん!!
オレと戦ってくれませんか!?
バッジをかけて!!
今、ここで!!

…ほう。

なんですって!?
捕われのジムリーダーの居場所がわかった!?

いや、正確な場所がわかったわけではない。ゴチルゼルのサイコパワーでイッシュのどこかにいる彼らの姿を見出すことができただけなのだ。

ふむ、ゴチルゼルがアンテナとなり、ジムリーダーたちの精神に感応したということか。
ええ。

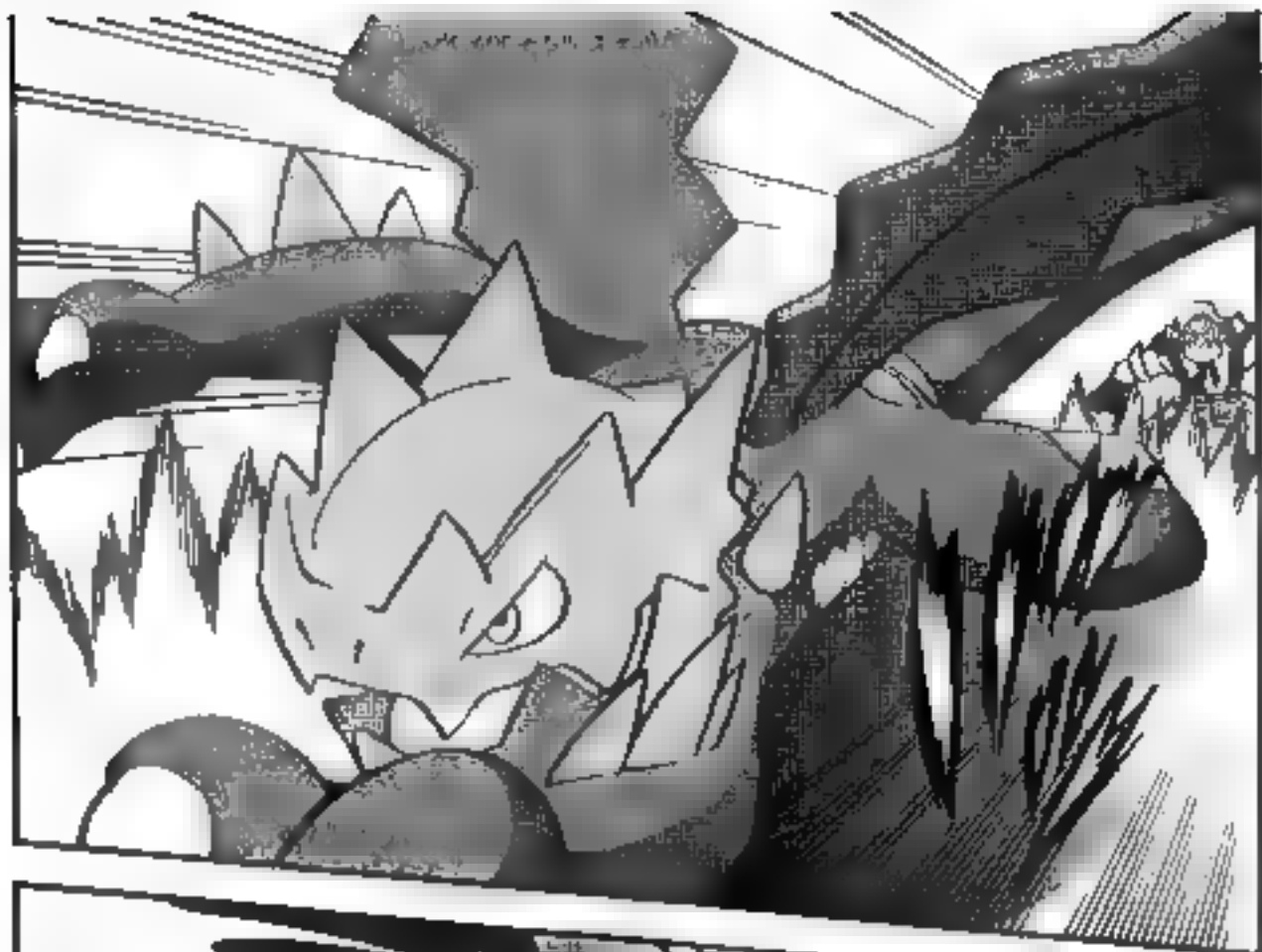
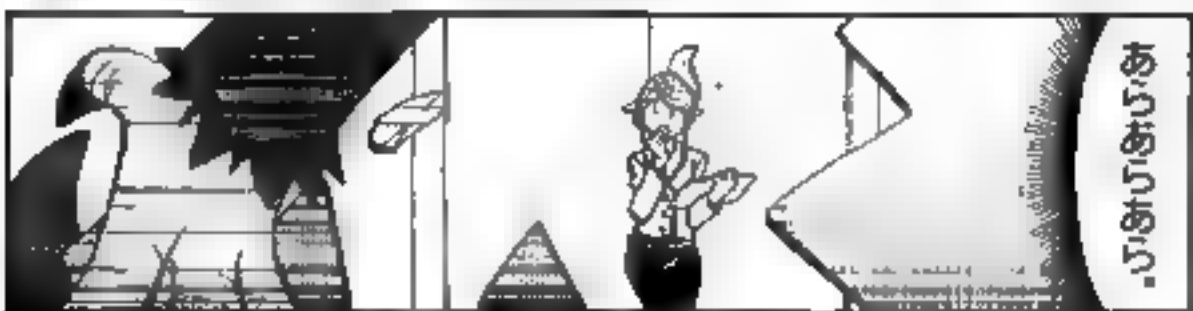
…そして交信もできます。この瞬間にも…。

…タ…、

タ
ス
ケ
テ

ADVENTURE MAP

POCKET MONSTERS SPECIAL
The Tenth Chapter
BLACK&WHITE
#512
VSクリムガン
CRIMGAN
こう しん
「交信」

しゅぱっ!!
あらあらあら。
市長ったら、なにも
こんな話題で
戦わなくたって・
ヒカリ!
あと何分ある?
あ…ハイ!
サザナミダンサーズの
ショーが始まりましたから、
15分ほどで閉会
セレモニーは終わります。

聞いたとおりだ、ブラック。
開会式の最後にわたしはもう1度主催者のあいさつをしなければならん。
おまえの相手ができるのはそれまでだ。

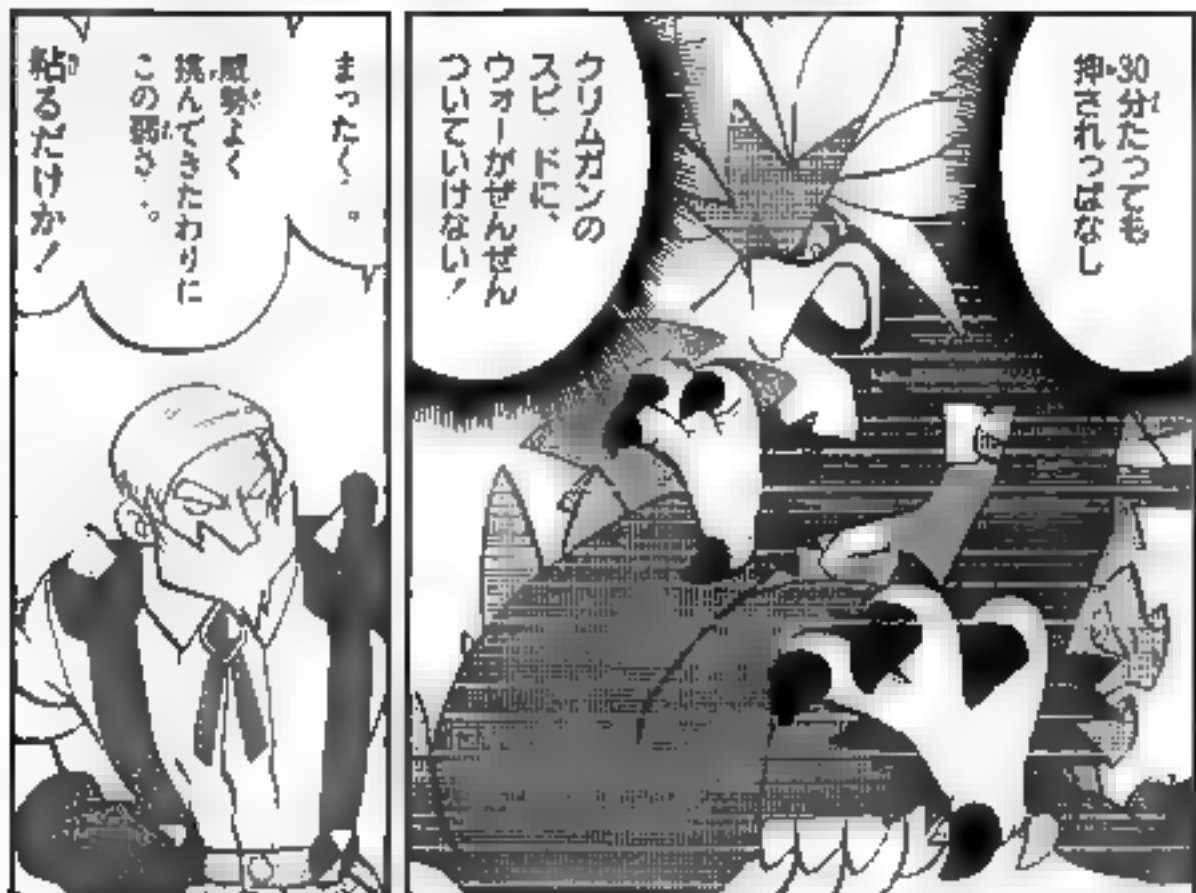
わかってる!!
わかってら!!
8個目のバッジのため、シャガさんが特別に応じてくれたこの戦い。
絶対に負けるわけにいかねえ!!
だけど…!!
"りゅうのいかり"!!

お、"おいかぜ"!!
う…

限られた時間！リーグ会場の関係者通路とはいえ、いつ邪魔が入るかわからない場所！
だから短時間で勝負が決まるように、1匹対1匹にしたってえのに…！

30分たっても押されっぱなし
クリムガンのスピードに、ウォーグルがぜんぜんついていけない！

まったく…。威勢よく挑んできたわりにこの弱さ…。粘るだけか！

ポケモンへの指示が遅い！迷いがある証拠だ！
そんな気持ちでこのシャガを倒せると思ったか!?

へへ、
さすがに「真実」を
隠すことはできねえか。
そうとも。
オレは今
ベストからは
ほど遠い。

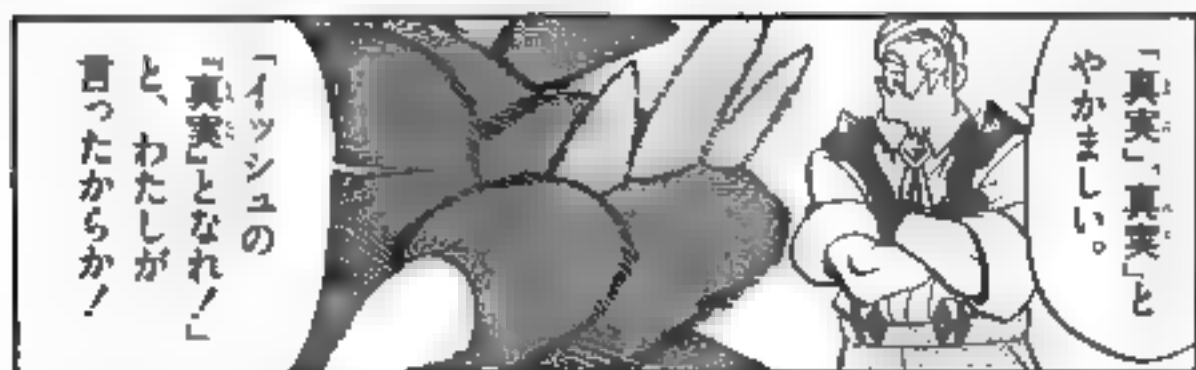
なんせ
一番古い
つきあいだった
手持ちに逃げられ
ちまったんだからな。

心が結ばれてると
思ってたのに、
実は絆なんて
なかった。
それが
「真実」だ!!

その「真実」を
思うと…、
同じだけ
つき合いの古い
ウォーに対しても
つい気持ちが
すくんじまう…。

……。

リーグに出るってこともあきらめられない…。

…これも「真実」なんだ。

だから…心の中に残った気持ちひとかけら…それにすがってここに来た。
オレ…中途半端かな…ッ…

ああ。
すこぶる中途半端だ。

話にならん。
クリムガン、もう最後にしてやれ。

ロッククライム!!

ウォーン
クリムガンは
ドラゴンタイプ
もともと
硬いのだが
中でも
腹の皮ふが
特別に硬い。
ドリュウズなどが
掘ったせまい穴を
猛スピードで
かけまわることができるのも、
その硬さ
あってのもの
そして、
せまい穴のような
この通路は
こいつのもっとも
得意なフィールドと
言っていい。
ここでの
クリムガンの
フットワークに
かなうポケモンは
いない。
そう思って
この場所で
戦うことを
決めたのだが
おまえの
今の状態では
そんな戦略は
無用だったな。

…ごめんな…。
おまえたちに
あと押しされて
気持ちをふるい立たせて
ここまで来たけど…。
やっぱり…
今のオレじゃ
シャガさんには…。

でも…これで
いいよな？
なんとか
あきらめずに
ここに来たんだ。

シャガさんにも
勝てなかった。
リーグにも
出られなかった。
でも、
満足してるよ。

ここまで
やれたこと…。

ヤ、ヤーコンさん!?

だれも入れないようにカギをかけてたのに
いいから早く開めろ!!

四天王…
カトレア!
なぜ、ここへ?
アタクシはそこの少年に用があるのです。
そのブラックに。
オ、オレに用って…

しけたツラしやがって！小僧!!

どういうわけか、皆が皆運ばれたときの記憶がないんだよ。
運びこまれてからはずっと「闇」としか認識できない、暗く静かな場所でさ。

場所を特定する手がかりは得られなかったのですが、ただ・・・

ジムリーダーたちがどうしてもあなたと・・・
ブラックと話がしたい・・・と。

そうだぜ、ブラック。

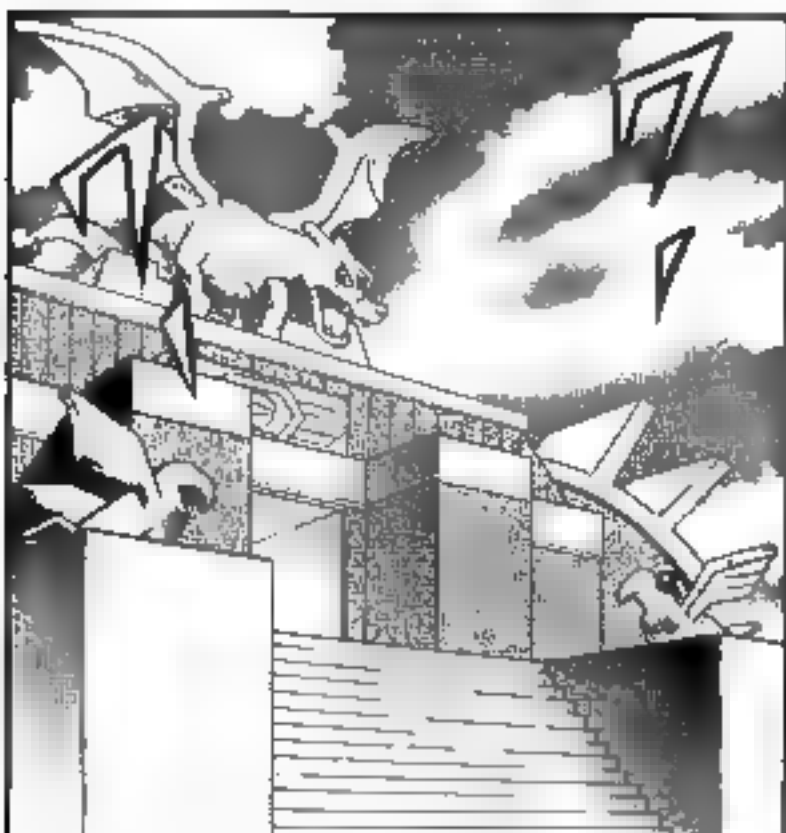
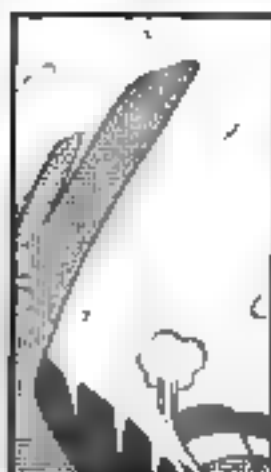
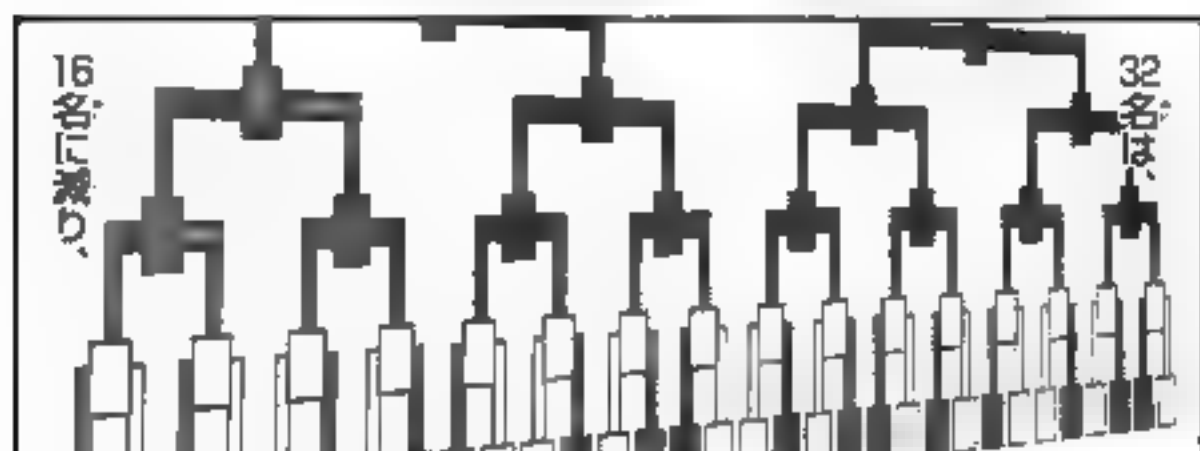
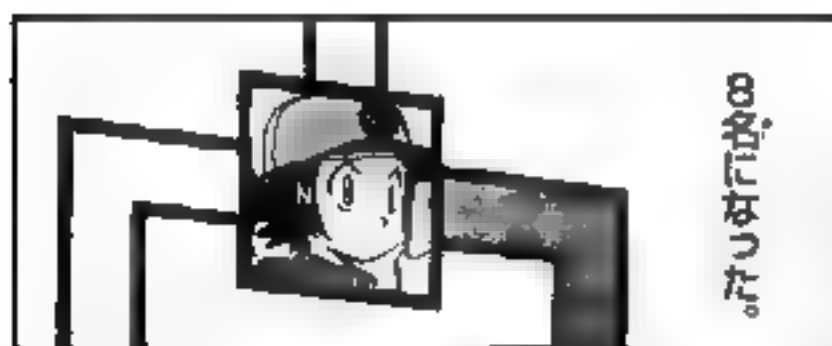
聞きました。
長年連れそったムンナが去っていったことを・・・

すまなかったな。おまえを巻きこみ
いろいろ苦しい思いをさせちまった。

そうでしょうか？

ろくに言うことを聞かなかったプロトーガがジム戦を通して心を開いていくのを、オレはこの目で見たぜ。

トレーナーとポケモンとの関係、あなたにとっては「監督」と「選手」だって言ったわ。

あなたがここまで来れたのは、ポケモンの「声」を聞いてきたから。
あなたはすでに答えを出している。
…ウォー。
◆エアスラッシュ◆!

その程度の一発
楽に避けられるわ。
当てるつもりねえよ!
なに?

どしゃ

これまでカスリ傷一つ負わなかったクリムガンが、
まっ正面から技を受けたわ!!

冷たい外気がいっせいに流れこんできて、
体が冷えたのさ。
まあ、オレのウォーも寒さは苦手だ。ギリギリの作戦ではあったけど…。
ブラックさんの勝ちですね？
……。
来い！
ひあい

たった今、リーグ出場資格を持つもう1人のトレーナーが来た。
32番目のリーグ参加者、ブラックくんだ。
LIVE

えええええ!!?

この32名でいよいよ明日からのポケモンリーグが始まる!健闘を祈るぞ、諸君!!
これで本日の開会式は終わりだ!

ポケモンリーグに、

出場だア!!

そして、翌朝、
トーナメントが
始まった。

トーナメントは
チャンピオンロードの
1階からスタート

洞窟や

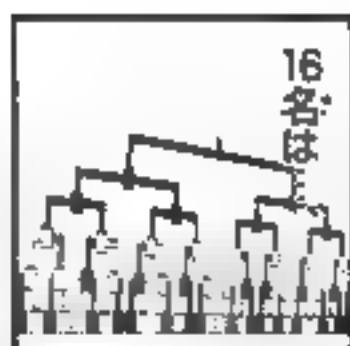
山肌で
熾烈な攻防が
繰り広げられ

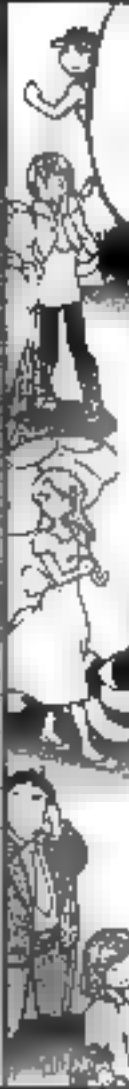
山頂に
向かうに
したがい、
32名の参加者は
1人減り
2人減り、

32名は、
16名に減り、

16名は
8名になった。
これが8人の顔ぶれです!!

さあ、
ついに ベスト8が 出そろいました!!

ADVENTURE MAP

POCKET MONSTERS SPECIAL
The Tenth Chapter
BLACK&WHITE
#513
VSグレッグル
GUREGGRU
「潜入」

ベスト8まで進んだか…、ブラック。

つづけさまの試練に、心が折れたのではと思ったが、
ジムリーダーたちのはげましで、あきらめずにはすんだようだな。

惜しむらくは…

捕われの仲間たちと交信できたにもかかわらず、
居場所を特定するにいたらなかったという事実。

暗く静かな場所……。

これは言葉どおり光もなく音もないそんな場所であるということ……。

…一方、

「記憶がない」……。これを「覚えていない」と解釈するか、または、

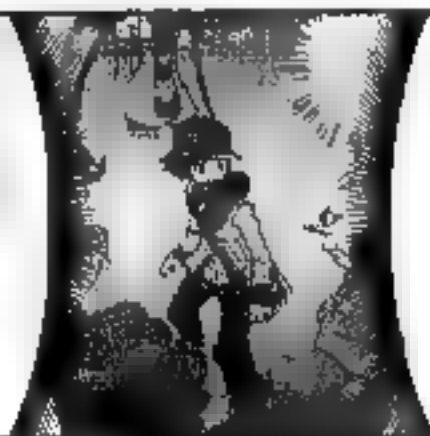
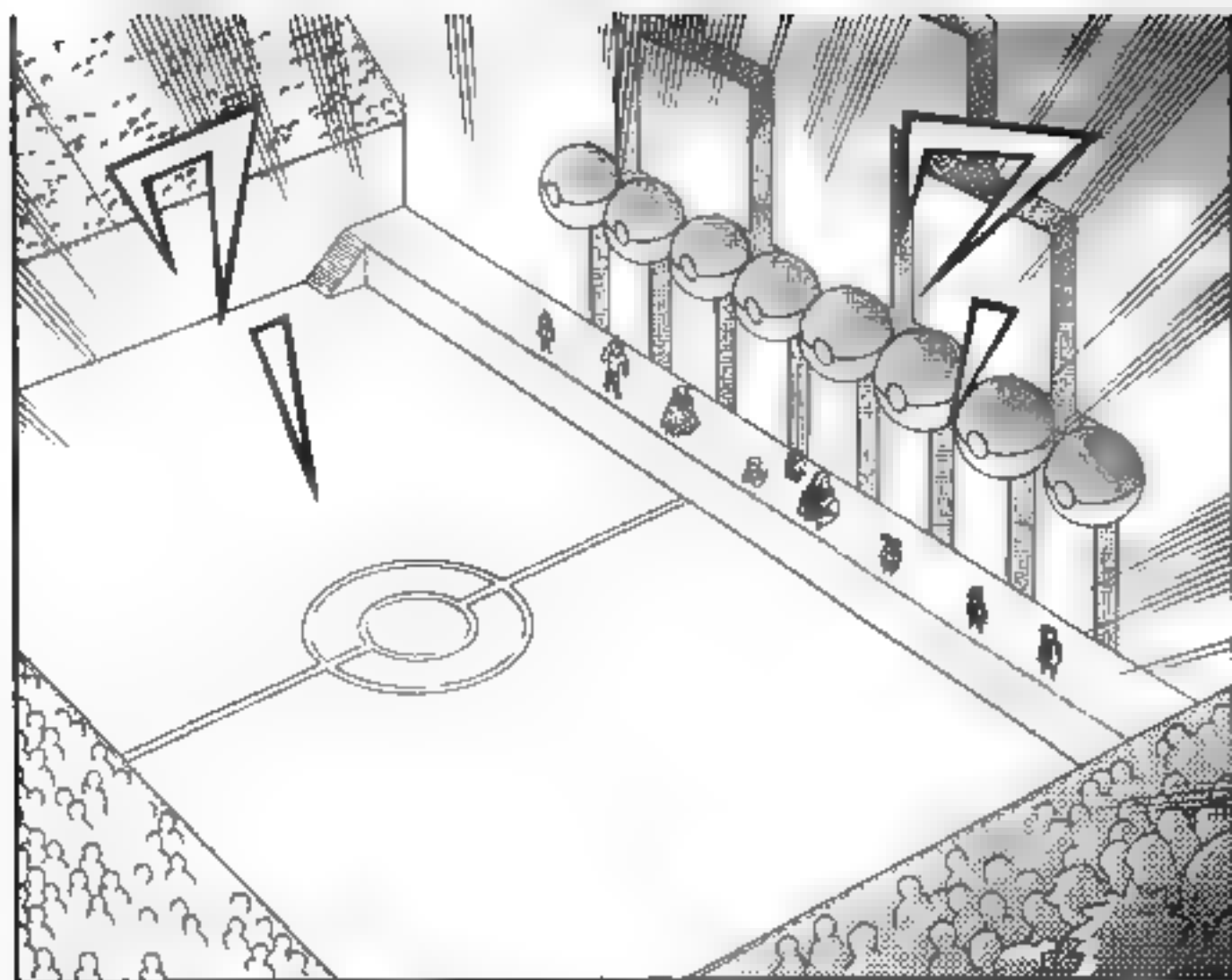
「忘れさせられてしまった」…か。

…。

行くぞ。

アイリス！おまえも出場者だったなんてな！驚きだぜ！
エヘヘ。

じつは、シリンダーブリッジで会った時にはもうバッジ８コ持ってたんだ！
へえ!!

でも、もっと驚きなのはアイツだぜ！

知り合い？
チェレンって いってさ、
幼なじみなんだ。
サンヨウジムのあとも、バッジ集めしてたなんて…。
言ってくれりゃあいいのに…。水くせえヤツだなあ。

おーい、チェレン！

ささ！定位置に戻ってください。

出場者は各自このカプセルに入ってください。

公正を期するため、試合出場時以外に出ることはできません。

ポケモンの回復はカプセル内に設置のマシンにて行われます!!

ポケモンリーグトーナメント準々決勝戦!!

対戦カードは次のとおりです!!

アイリス
アイリス対グレイ!!
グレイ
VS.
ペタシ
ペタシ対チェレン!!
チェレン
VS.
シズイ
シズイ対フードマン!!
フードマン
VS.
ハンダサムロウ
ハンダサムロウ対ブラック!!
ブラック
VS.

試合に先立ち、
四天王の入場です。

ギーマ!!

シキミ!!

カトレア!!

そして
レンブです!!

オオオオオ

ザワ

やはりチャンピオンがいない。
プラズマ団の王に敗れたってのはホントだったのか。

諸君!! 静しゅくにねがおう!!

このトーナメントを昇りつめたただ1人だけが四天王への挑戦権を得る。
4人を連続で撃破できた者がポケモンリーグの頂点に立つ。

わかっている!
「四天王とチャンピオン」ではないか、といいたいのだろう?
たしかに例年どおりならアデクを含めた5人だ。
ザワ
ザワ

だが、今回は事情があってアデクはいない。
したがって、、

四天王全員を打ち破った者がすなわち、
新たなチャンピオンだ!!

トレーナー・
ハンダサムロウ
VS
トレーナー・
ブラックです!!

ルールはそれぞれ3匹使用の入れかえ戦!!
ただし、出したポケモンはひんし状態になる前に交代させること!!
すなわち、
1匹でも戦闘不能になれば即、敗北です!!

!?

な、なんだ!?
見たことのないポケモンだぞ!!

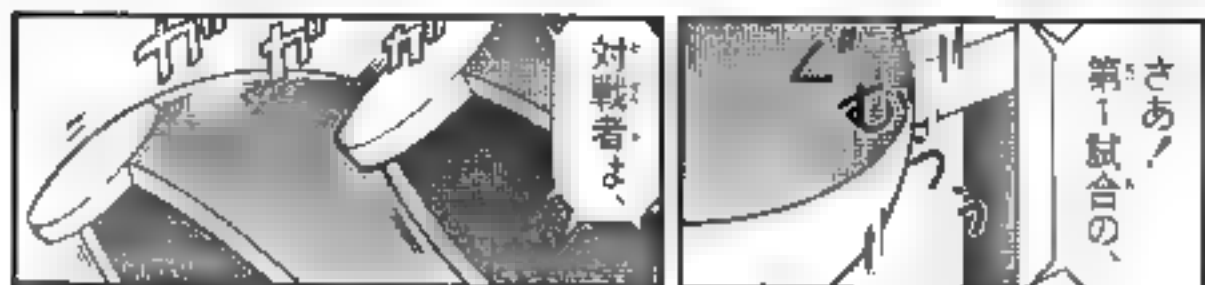
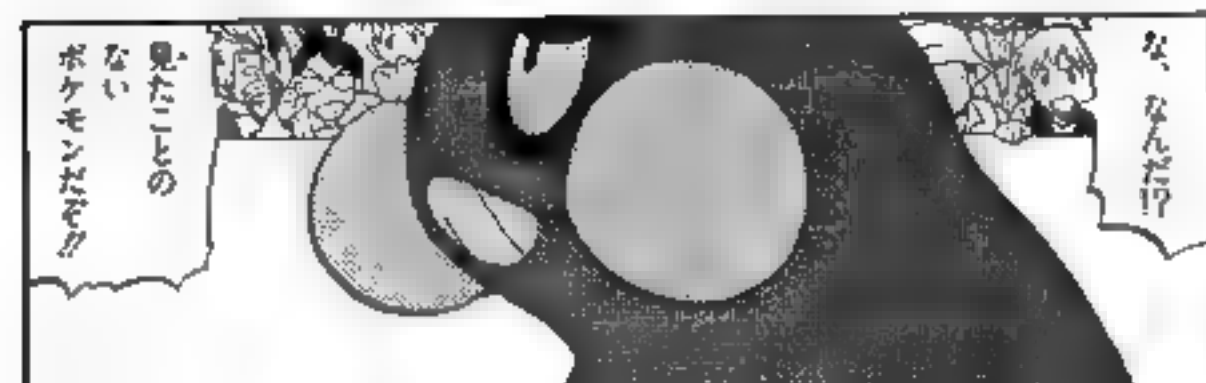
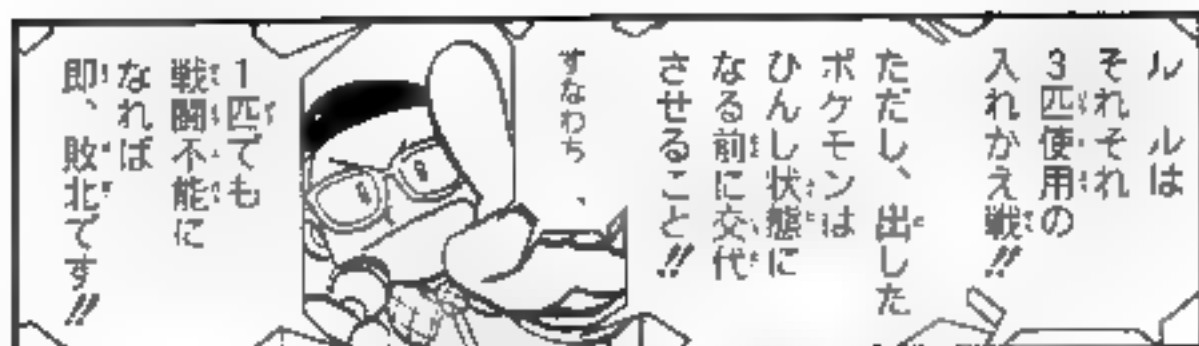
ポケモン図鑑が反応すらしないなんて…！
じりじり

会場もざわついてます！イッシュ地方では見なれぬ1匹！
そして、このハンダサムロウというトレーナー、

遠い地方から来たという以外は、
なにも明かされていない謎の人物です！

これはほかの出場者にとっても、
注目の一戦になりそうだ!!

チュラ!!

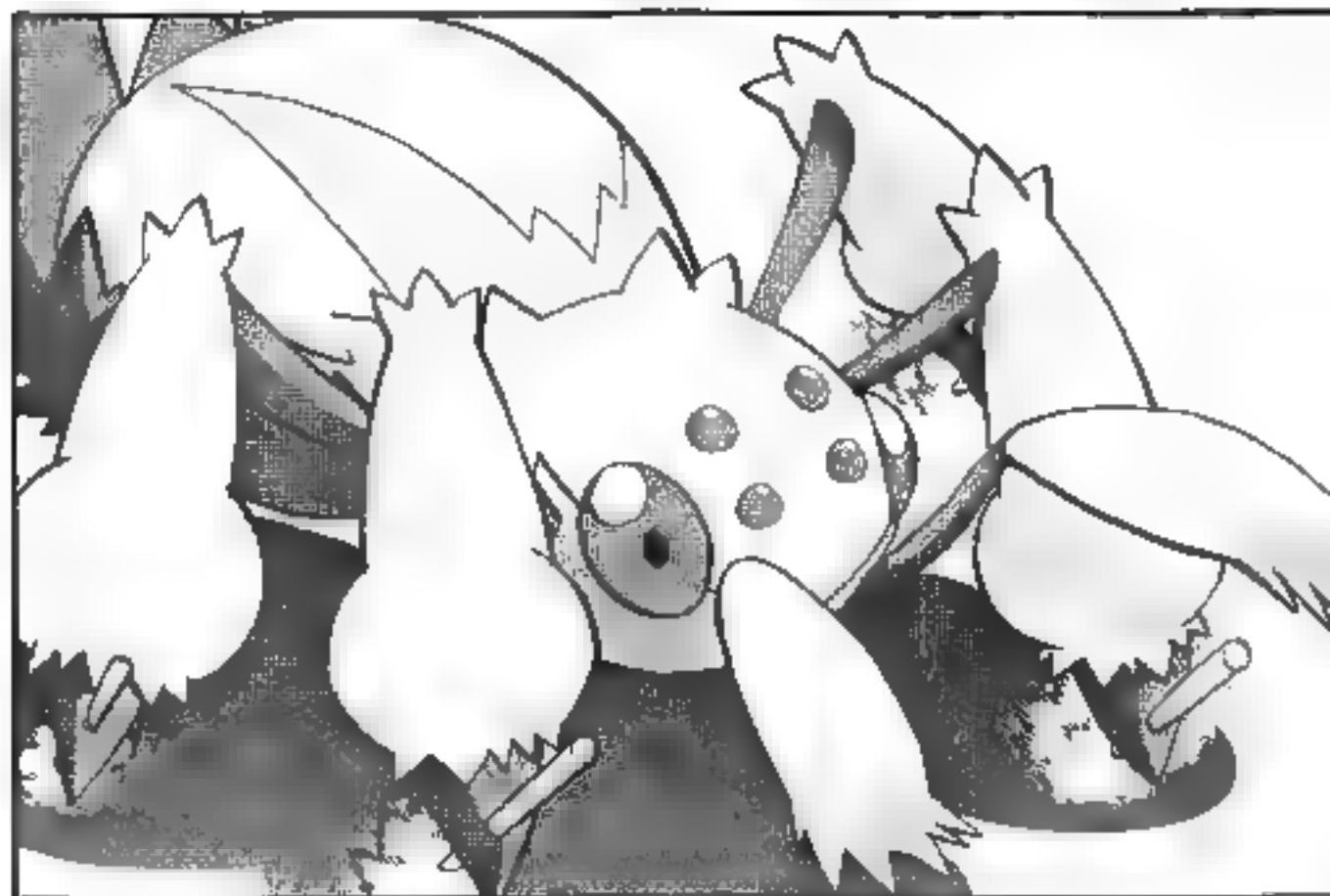
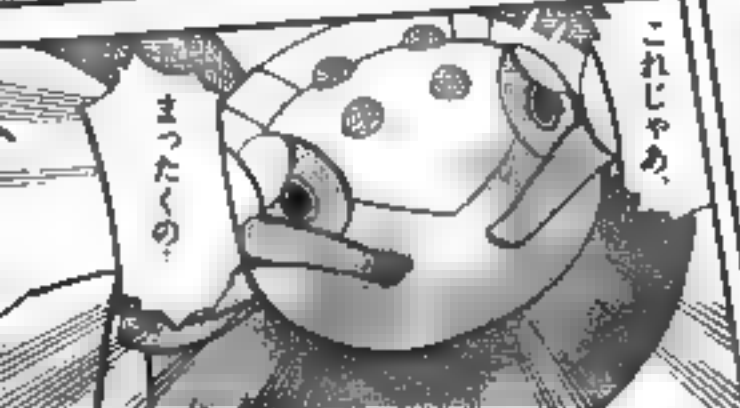
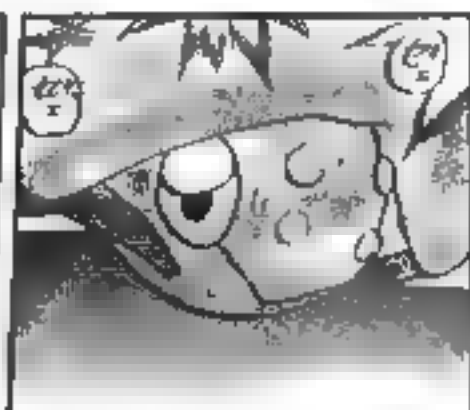
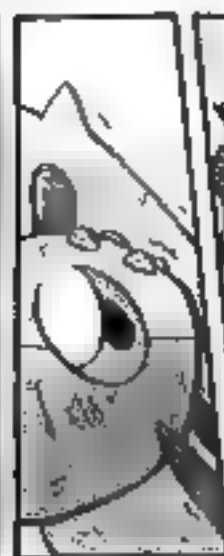
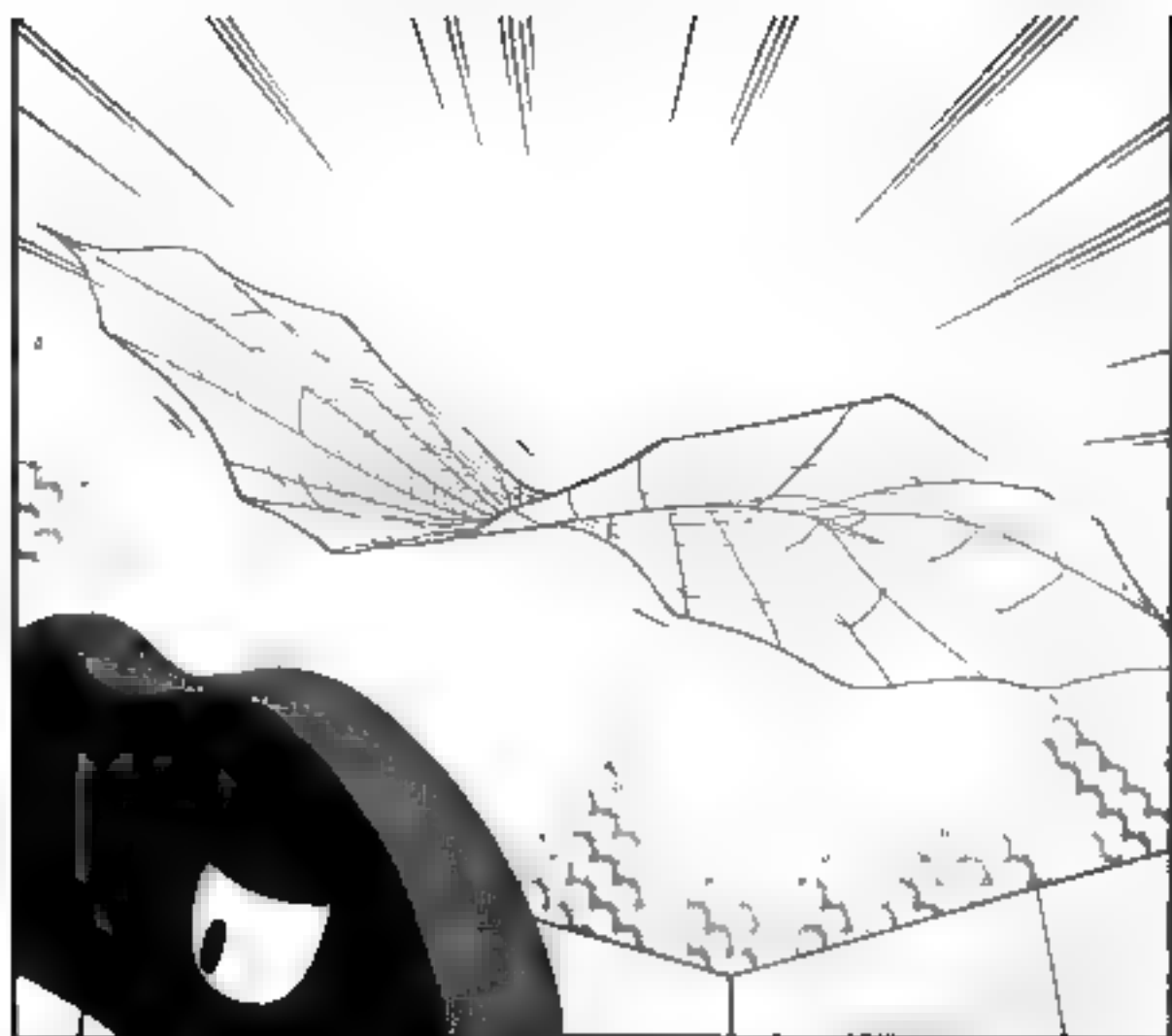
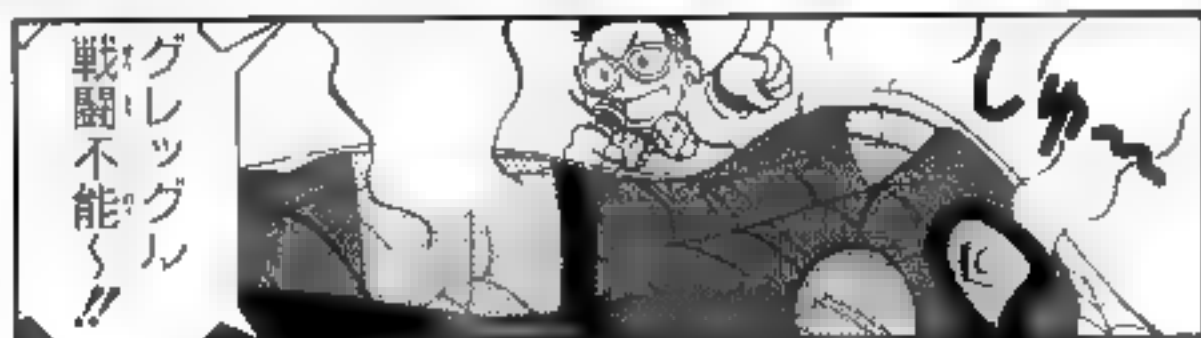
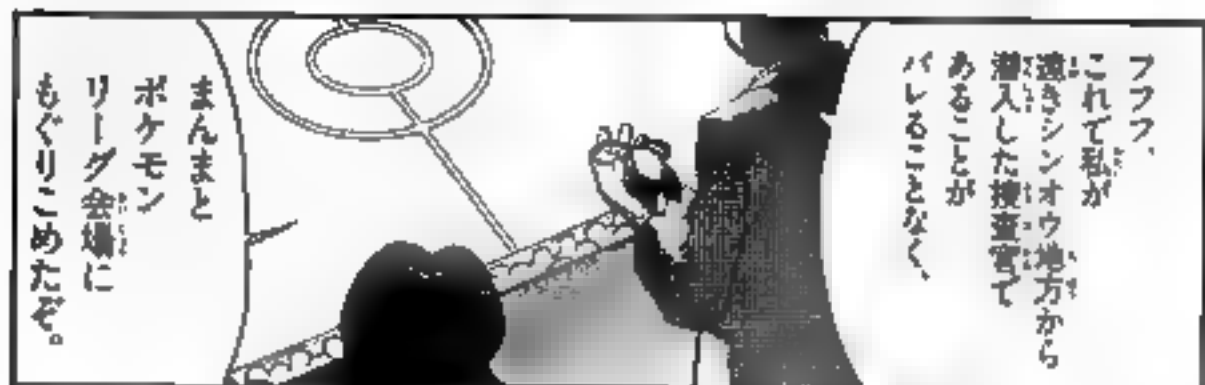
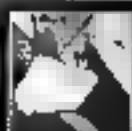
今の技
「かくとう」タイプ?

今までならカンペキな下調べをしてきたけど、
今は相手の素性も手持ちもわからないトーナメント!しかもこの戦いではタイプすらわからない!!

戦いながら探っていくしかねえ!!
エレキネット!!

さっきの技、かまえ、フットワーク、
おそらく直接打撃の肉弾戦をしかけてくる!まずはネットで簡単に近づけないようにガードして…

シグナルビーム!!

その前に倒される可能性もあんのよね！

1匹でもひんしを出したら終わりなんだから、しっかりなさいよね!!

肉弾戦だけじゃなかった!!
フィールドにはりつけられた!!
おまけに「どく」まで…!!

“しんくうは”!!
ばっ!!
じゅ
バリアがわりにはってたネットがはがされた!!
しかも身動きとれない!!
これじゃあ、
まったくの…

無防備(ノーガード)!!

いきなり見たことのない相手…!
しかも「どく」「かくとう」タイプ!!
ここで「エスパー」のムシャがいてくれたら…!!

しっかりしろ、オレ!!
ベスト8まで来たんだぞ!!
目標まであと一歩!!
なんとか逆転の目を見つけるんだ!!
チュラの体力はおそらくあと1回技を出すくらいしか残ってない!!
どうする!?

あれだ!!

ムん
え!?
む!

イイサ．

勝者、トレーナー・ブラック!! まさかの大逆転!!!

へ…へへ、

やったぜ、チュラ!

ひんし寸前と思われたデンチュラが、最後の最後で手強い相手をくだしました!!

教授、ハンダ サム あれ？
いない!!

インターナショナルポリスアームズNo.13!!
アンビリーバボーメタモルフォーゼセット。

フフフ、これで私が遠きシンオウ地方から潜入した捜査官であることがバレることなく、
まんまとポケモンリーグ会場にもぐりこめたぞ。

ジャラジャラジャン!! チャラチャチャーン!
む!? 国際警察本部からだ。

…ハイ、ハイ、首尾よく潜入成功しました。
…は？
テレビ中継で見た？
え？ 私だとわかったのですか!?
ぐむ…、今後は慎重に…、
……ハイ！

おりました！ 私と同じように明らかに正体を隠しておる者が!!
おそらくわれわれ国際警察の追っている者と考えてさしつかえないでしょう。
…はっ。
引きつづき捜査をつづけます！
以上、捜査官ハンサム報告を終わります！

グレイ!!

ヤツが特に怪しい!! 刑事のカンだ!!

逃がさんぞ!! 七貫人!!

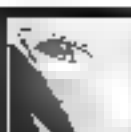
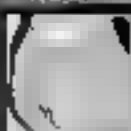
ADVENTURE MAP

おおひぶたポケモン ブオウ
エンブオー♂
Lv. とくせい もうか

ゆうかんポケモン ウォー
ウォーグル♂
Lv. とくせい ちからずく

でんきグモポケモン チュラ
デンチュラ♀
Lv. とくせい きんちょうかん

こだいがめポケモン ゴーラ
アバゴーラ♂
Lv.42 とくせい ハードロック

NO DATA

POCKET MONSTERS SPECIAL
The Tenth Chapter
BLACK&WHITE
#514
VSモノズ
MONOZU
「熱闘(ねっとう)」

白熱のポケモンリーグ。
第2試合は、

チェレンVS!
ケンホロウ!
フェザーダンス!!
バァッ
モノズ!!
ペタシ!!
羽が舞ってるから気をつけて!

おーっと！ペタシ選手のモノス、
指示もむなしく、羽にまかれてしまったーっ!!

もた
もた
・かみつく・!!

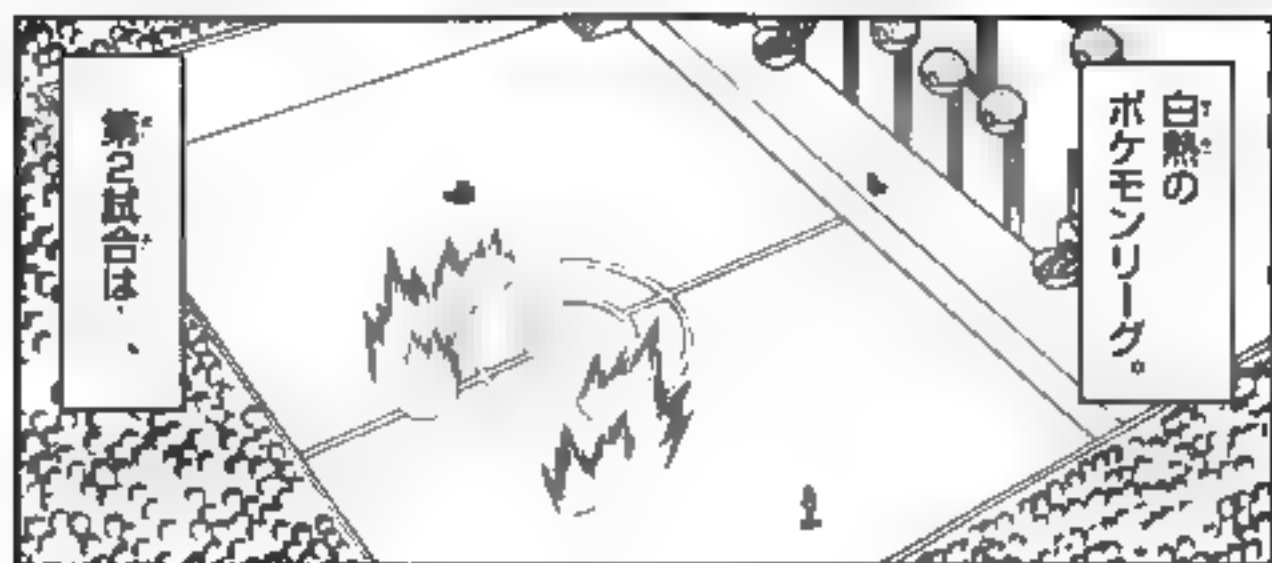
羽がまとわりついて動きにキレがない！
攻撃力が下がってしまったか、まったく効いていません!!

ゴッドバード。

やった!!

へこん
き、

決まりましたーーッ。
モノス戦闘不能～ッ!!
勝者チェレン選手、
ベスト４進出です!!

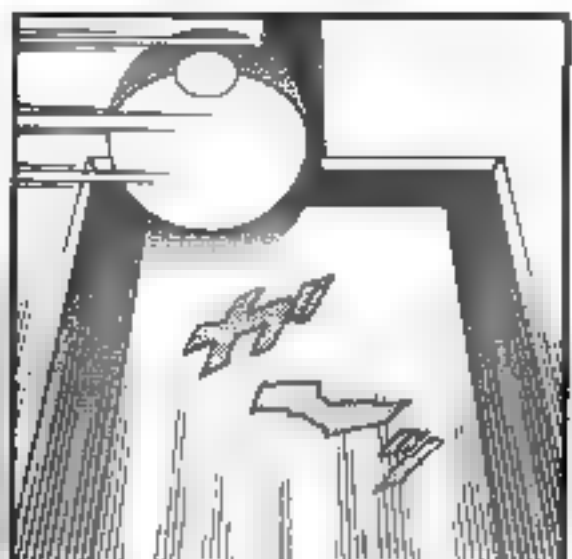
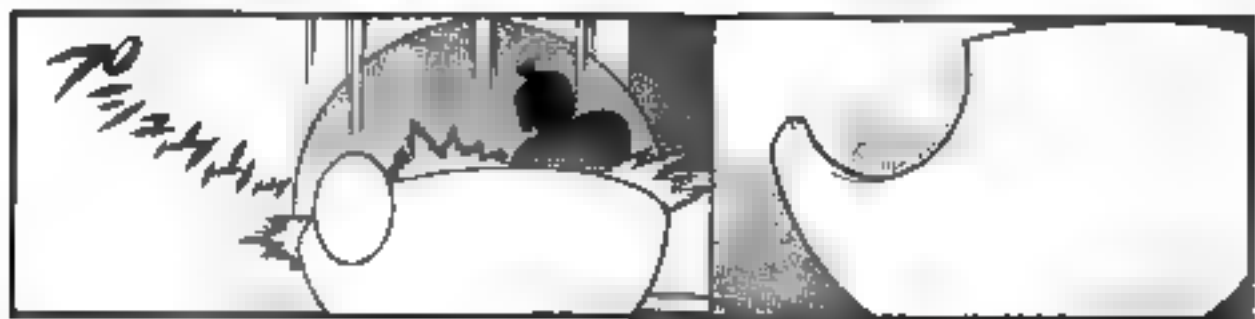
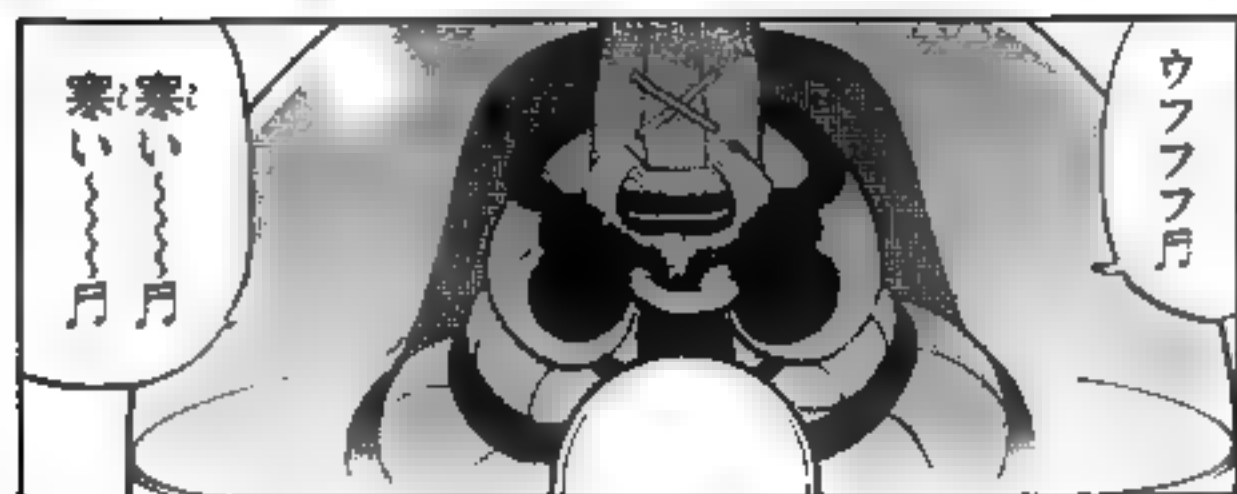
いや、知ってっかもしんないけどォ、モノズってポケモンは目が見えないもんだから、今みたいな作戦番キツいんだァ。

オラ、ここまで体当たりしたりかみついたりガムシャラ戦法で勝ち進んできたんだけんども、

あんだみてえにパワフルハーブ持たせて、タメなしで・ゴッドバード・なんてびっく〜りだすよ。

どうしちまったんだ？チェレンのヤツ。
いい試合だったし、相手も友好的だし、
なのにまるっきり無視って…。

あんなに礼儀正しくて気配りがきいてめんどうみがよかったアイツが…。
なにかあったのか？

フフ、頼もしい。
頼もしいまでの心の冷たさだな、チェレン。
いいぞ。

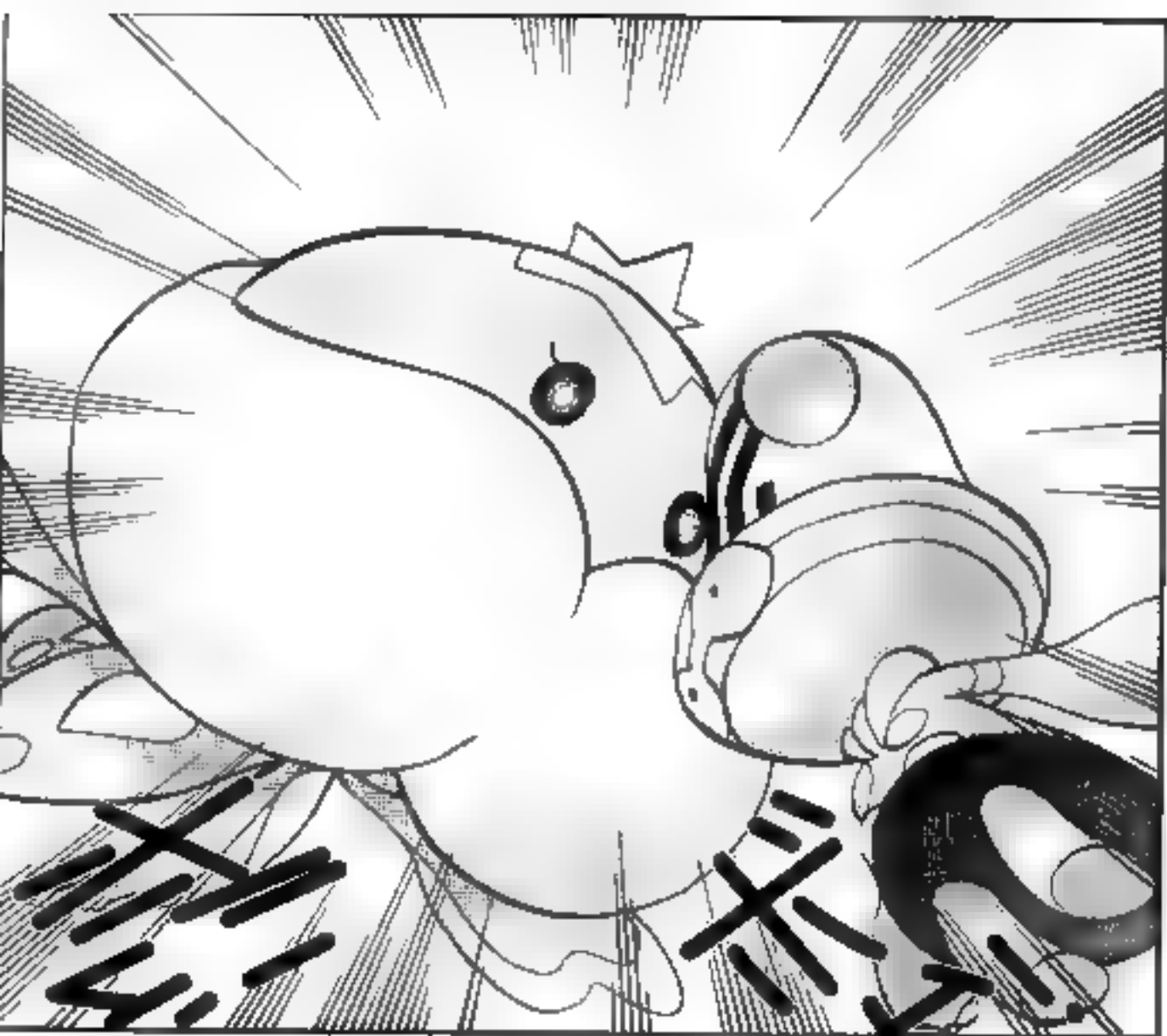
冷たさ、寒さ、
それこそがやはり生きる実感！

なんと…！
怪しすぎる！

ぶ厚くモコモコのかっこうをしながらまだ寒がっている奇妙さ。寒がりながらも着んでいる不気味さ。

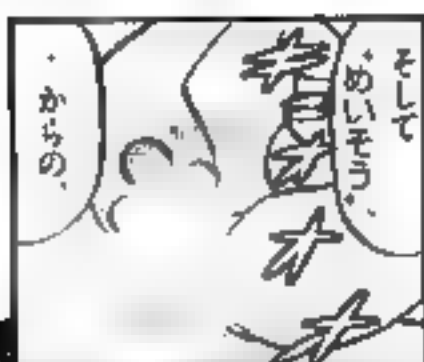
選手登録名「グレイ」。
グレイ
グレイ…。GRAYとは灰色という意味。

灰色…、黒も白もふくめるということか…。
むむむ。名前まで怪しい…。
続きまして、第3試合!!

むおっ！
対戦者は…！

フードマンVS!
海よりも海な男、シズィだーっ!!
おはん、強そうやねえ。
ほな、
はじめようかい!
試合開始!!

おいは海が ふるさとじゃっ!
生まれてこっち 陸にいるより、ポケモンたちと 海の中で過ごした 時間のほうが 長かと!!

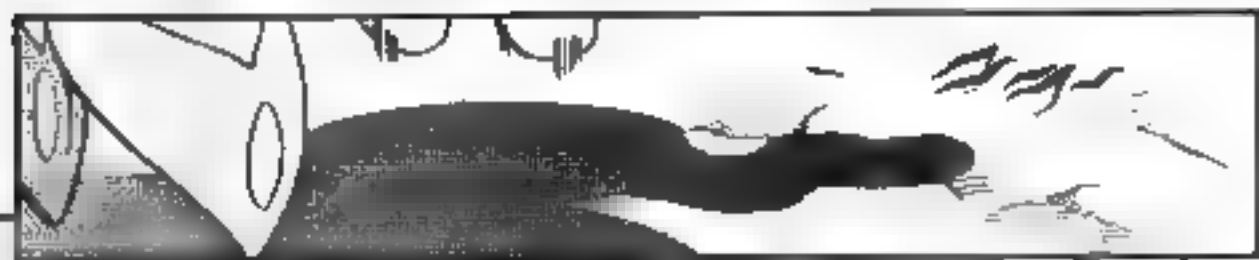
海にもまれ、いろんなポケモンと 勝負してきたんじゃっど!
そうやって培った力を 試しとうて試しとうて このリーグに来やった!!

ブルンゲル、〝ねっとう〟!!

どうや!?
「やけど」状態ったい！
ふむ。
かまわないです。
「やけど」で体力を削られようと自身の細胞を再生できます。
・じこさいせい・でね。
そして
・めいそう・
・からの、
・エナジーボール・!!

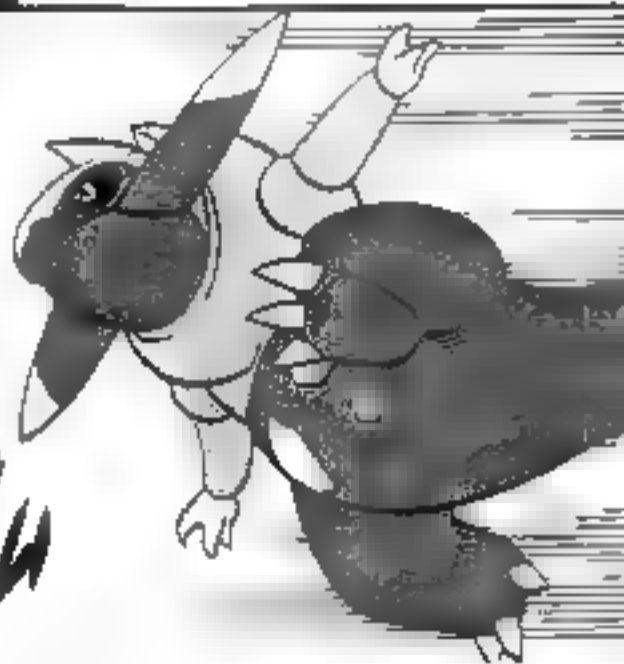
くらったーっ!!
モロにくらいました!!
やられたァ!!
くやしかァァ!!
やっりおるな、おはん!!
強そうなんやのうて、わっせ強いんじゃな!!
おいもたまげたよ!!
参ったち!
ワクワクしてたまらん!
「エスパー」じゃと思うたら〝くさ〟の技まで使ってきようとはの!!
じゃっどん
じこさいせいならこいつもやりおるけんね、
反撃じゃ!!

体力くらべ
力くらべじゃ!!
おまけに特性は
"のろわれボディ"よ!!
得意の
"エナジーボール"は
封じさせてもらったったい!!
んんん!?

シャ、シャトーボール!!
決まりましたー!!

ブルンゲル戦闘不能ー!!
オオオオ
オーベムの勝利です!!

こちらも益がありましたから。
こうして大会に出場することで、さまざまな強いトレーナーを間近で見られる。

いよいよ準々決勝最後の試合です!!
はぁ～～、手持ちはそれぞれ複数匹持ってるのに、「1匹でもひんしになったら負け」っていう特殊ルールのせいでほとんど1対1で決まっちゃうわけね。
前評判も高い実力派少女!
竜の心を知る娘、イリスだーっ!!
だん
でも、
あたしは、で終わりなんてことないからね!

いよいよアイリスか！がんばれよ!!
対しますは…、
グレイ選手です!!
よろしくね。モコモコさん。
えっと…。
ゴクリ。
試合開始!!

この試合に
勝つのはあたし!!

ベスト4を決めた
ブラックと戦うのは、
あたし!!

強気なタンカを切った
アイリス選手ですが、

あっという間に
フリージオのクサリに
からめとられました!!

じわ…

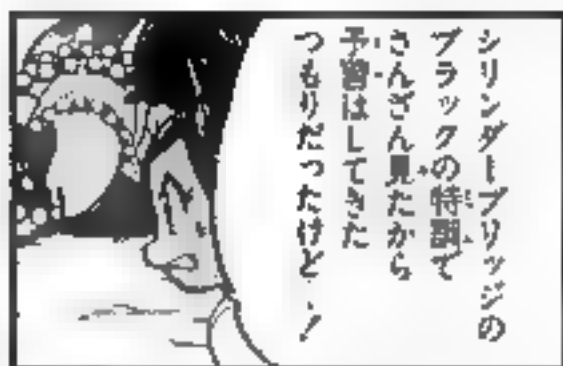
じわ
じわ

シリンダーブリッジのブラックの特訓でさんざん見たから予習はしてきたつもりだったけど…！

いざくらってみるとやはり「ドラゴン」にはきびしい攻撃…
そうだろう？

これは一方的だ!!
ここから見ていてもわかります！
クサノを通じて伝わる余波でオノンドの体がどんどん強張り、ちぢこまっていきます！

オノンドがんばって!!
ここで負けるわけにいかないよ!!

またもや早ばやと決まってしまうのかー!?

思い出して!!

あたしたちには勝たなきゃいけない理由があるでしょ!!

ズパッ
なんと！寒さでちぢこまったように見えたのは、
キバをクサリに届かせるための作戦！
ギンギンに研いできたから、
切れ味バツグンよ!!

ドギャ!!
飛びちったガレキも使っちゃえ!
がんせきふうじ!!
れいと
おそいおそい!?
いわくだき!!

逆転!! アイリス選手の勝利!!
やった!!
言ったでしょ? 「ドラゴンについては」知りつくしてるって。
知りつくしてるってことは、弱点もわかってるから、対策も立ててるってことよ!
じゃーねー。
く〜〜〜!!
負けましたか…
負けたということはつまり、、
その程度だということです。

捕われのジムリーダーたちが「連れ去られたときの記憶がない」と口をそろえて言っていたそうだが……
わたしにはどうしてもそれが不自然に思えてならなかった。
あくまで仮説、複雑な推理だが……
「記憶がない」のではなく、「白紙の記憶を上書きされてしまった」可能性もあるのでは……？

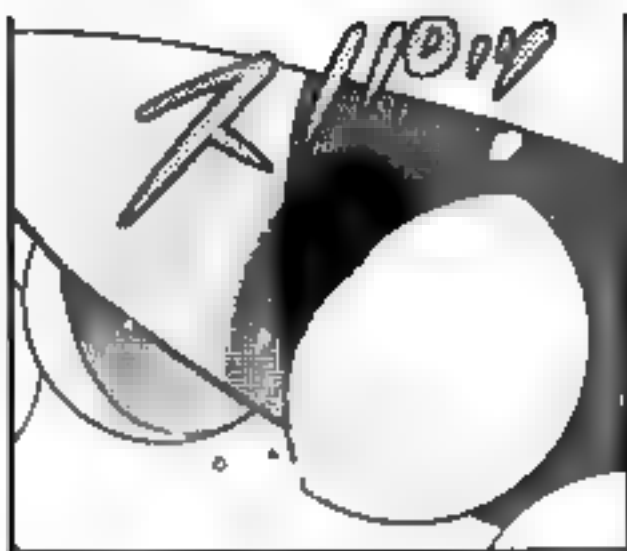
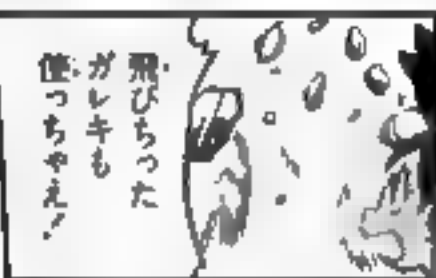
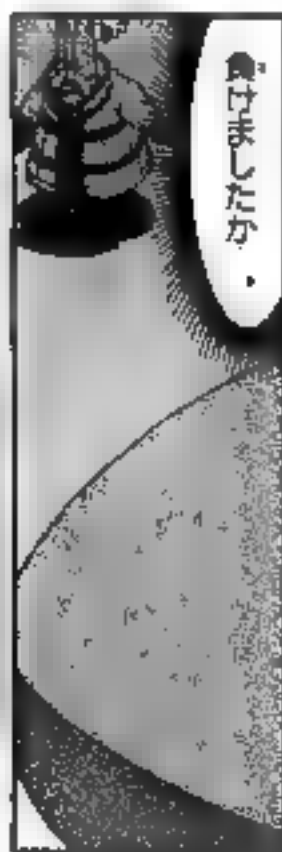
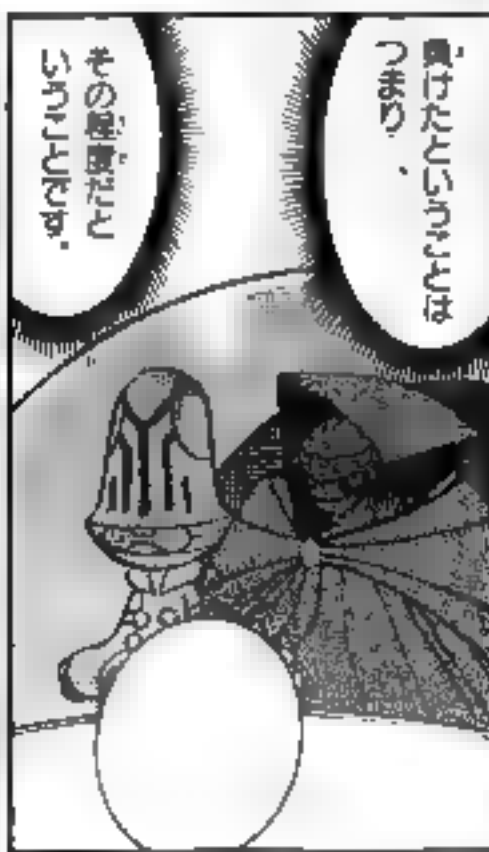
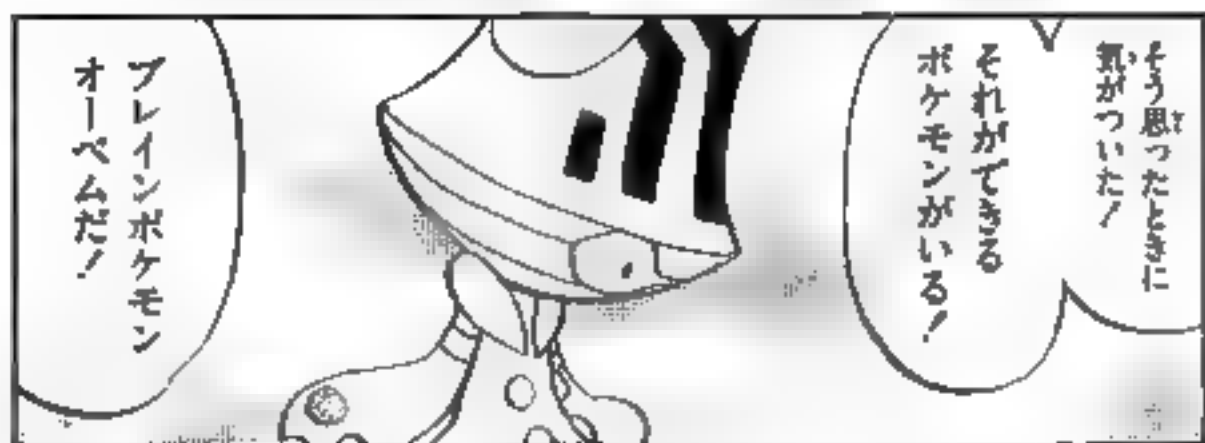
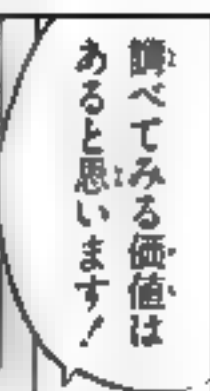
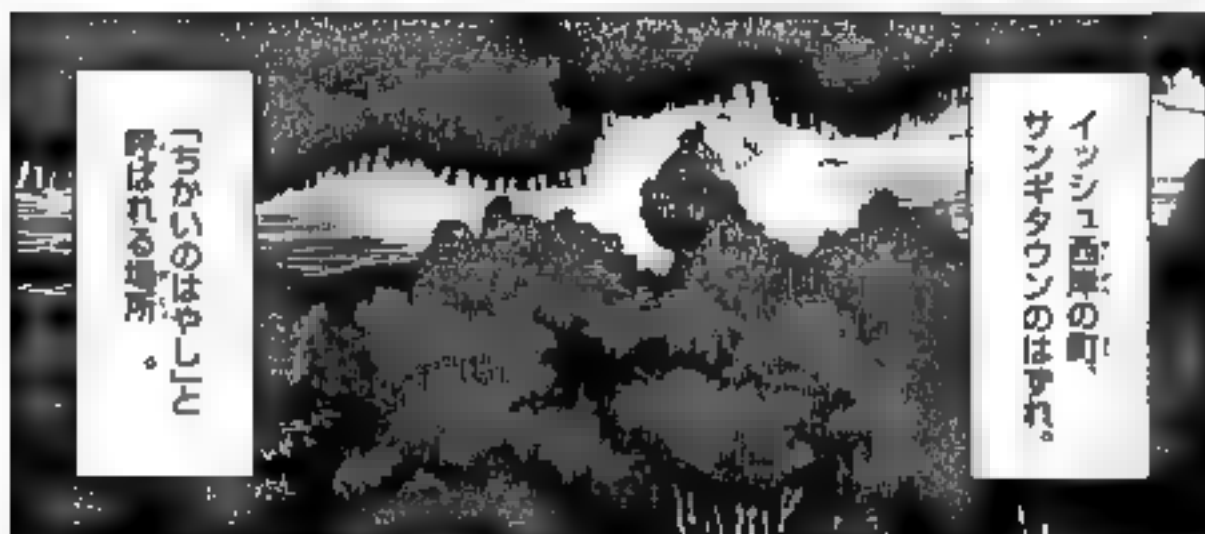
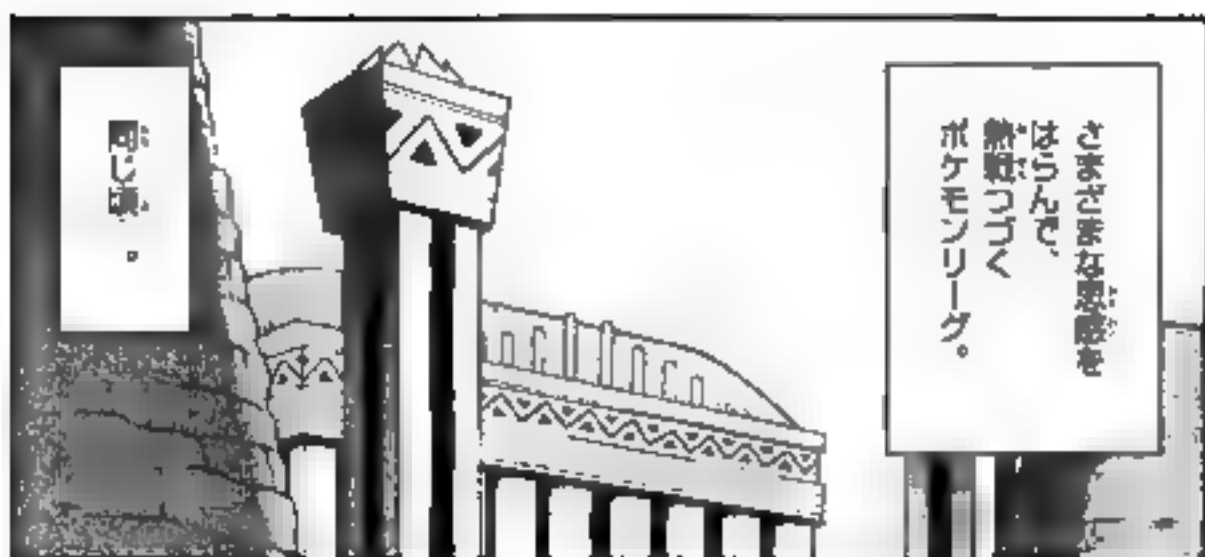
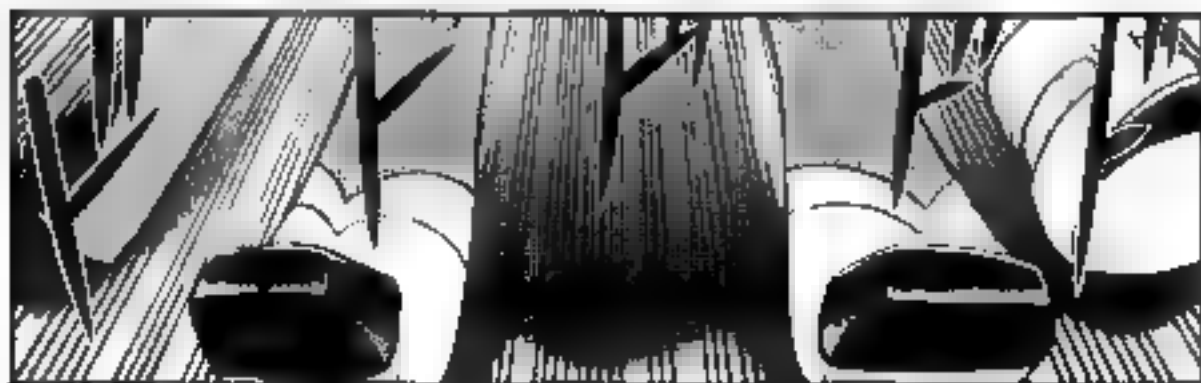
そう思ったときに気がついた！
それができるポケモンがいる！
ブレインポケモンオーベムだ！

そして出場者の中で正体を隠し、オーベムを使う者が1人……。
これは偶然か？思い過ごしか？
いいえ。

調べてみる価値はあると思います！
606 オーベム
ブレイン ポケモン
たかさ 1.0m
おもさ 34.5kg
サイコパワーで あいての のうみそを

力を貸してくれるか？

ホワイト。

もちろん！

POCKET MONSTERS SPECIAL
The Tenth Chapter
BLACK&WHITE
#515
VSケルディオ
KELDEO
「清心(せいしん)」

さまざまな思惑をはらんで、熱戦つづくポケモンリーグ。
同じ頃……。

イッシュ西岸の町、サンギタウンのはずれ。
「ちかいのはやし」と呼ばれる場所……。

さあこれから試験だ！

少しでも技を完成に近づけなくちゃ！もう少し練習しておこう！

先輩たち3匹が
この地に見える前に……！

炎の中、ひとり
洞窟にのこった。
しかもあの
アバゴーラが
つきそうほどだ。

オレたちに
ビビりながらも
クイタランや
ミネズミたちを
守り通そう
ともした。

中でも
ジムリーダーと
よばれる者たち。

彼らの
ポケモンたちを
見ていると、
いかに強い関係かが
わかります。

コバルオン、
あなたは？

ビリジオン、
テラキオン、
おまえたちの
言うことは
間違ってはいない。
だからといって
われわれが
ニンゲンに力をかす
理由にはならぬ。
いや
むしろ・・・

協力すべき
ではない。

忘れたわけでは
あるまい。
あの
古の
出来事を・・・

一度そうなってしまうと「良いニンゲン」とて変わってしまう。

ポケモンたちが利用され、犠牲になる。

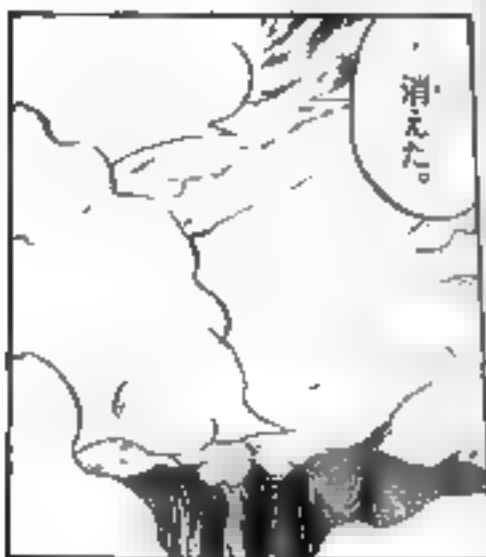
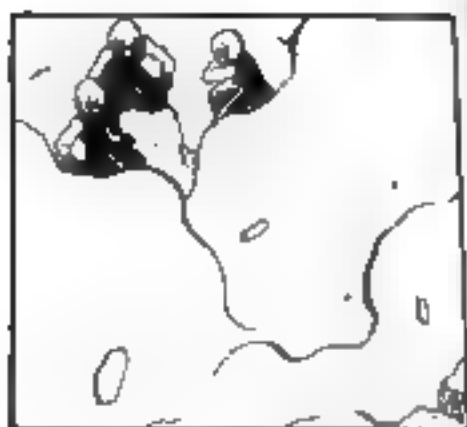
がんくつポケモン
テラキオン。
てっしんポケモン
コバルオン。
そうげんポケモン
ビリジオンか。

〝せいなるつるぎ〟を
使いこなすという
伝説の3匹に
出くわすとは。
ゲーチスさまの
リストには
入ってなかったが、
プラズマ団の
手駒として
邪魔には
なるまい。

こんなものだ。
しょせん、
われらの力を
利用しようと考える
ニンゲンのほうが
圧倒的に多いのだ。

やれるもんなら
やってみろ!!
この「剣」を
受けて、
立っていら
れればな!!
おまえたちは
手出しを
するな。
メタル
バースト!!

消えた。

……。
気にするな
果たすべき
目的の場所に
向かおう。

なぜ止めたのです。
「剣」をあびせれば始末できたものを！

心は言葉に出る。
「手柄として邪魔になるまい」。われらを道具だとでも思っている連中だ。

手を合わす価値すらない。
剣が汚れる。

われらにはすべきことがある。
行くぞ。

あ。

お待ちしておりました。

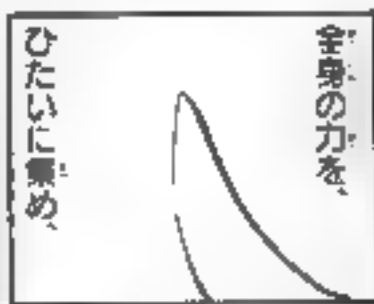
先輩たち!!

あと少し…!!

おお!!

よし、できた!!

これでみんなの仲間入り!

あら。

ええ。テラキオンからはパワーと突進力を、
このビリジオンからはスピードと切れ味を学ぶといい。

そしてわれらがリーダー、コバルオンからはいずれ何者をもはねかえす強さ、くだけぬ心を教わることになるでしょう。

あらためてよろしくおねがいします!!

いいぞ！強いだけではなく礼儀も大事だからな。
では基本のおさらいからはじめましょう。

「果たすべき目的の場所に向かおう。」

愚劣なニンゲンども！
なにを企む……！

P2 LAB.
P2 LAB.

じゅううう

すばらしい成果だ。

この計画が完成すれば、プラズマ団の力は…。
なにをも恐れぬ絶大なものとなろう。

ポケモンリーグも開催されたようだな。

ソウリュウシティ市長のシャガ…

リーグをエサにプラズマ団をおびき出すつもりだろう?

フフフ。

首を洗って待ってるがいい。

む!

さっきの3匹か!?
いや!!

デント。

コーン。

ポッド！

サンヨウシティを守る
3つ子のジムリーダーとは
オレたちのことだぜ!!
知らないとは
言わせねえ!!

知らぬな。
あらら。

ちくしょ～
バカにしやがって！
行けバオップ!!

やれやれ。
ヤナップ!!
ヒヤップ！

ジムリーダーといえば、
シッポウ博物館に集まっていたが、
そこにはいなかったな。

戦力的に不要と判断された。その程度の実力ということか。
ククク。
ひとつのジムを3人がかりでやっと守っているのだからな!

ククククッ!!

ぐ
ぐっ…

見事だ、ケルディオ。

よくぞ「剣」を身につけた。

さあ行くぞ。
どこへ？

さっきの3人のニンゲンを追う。

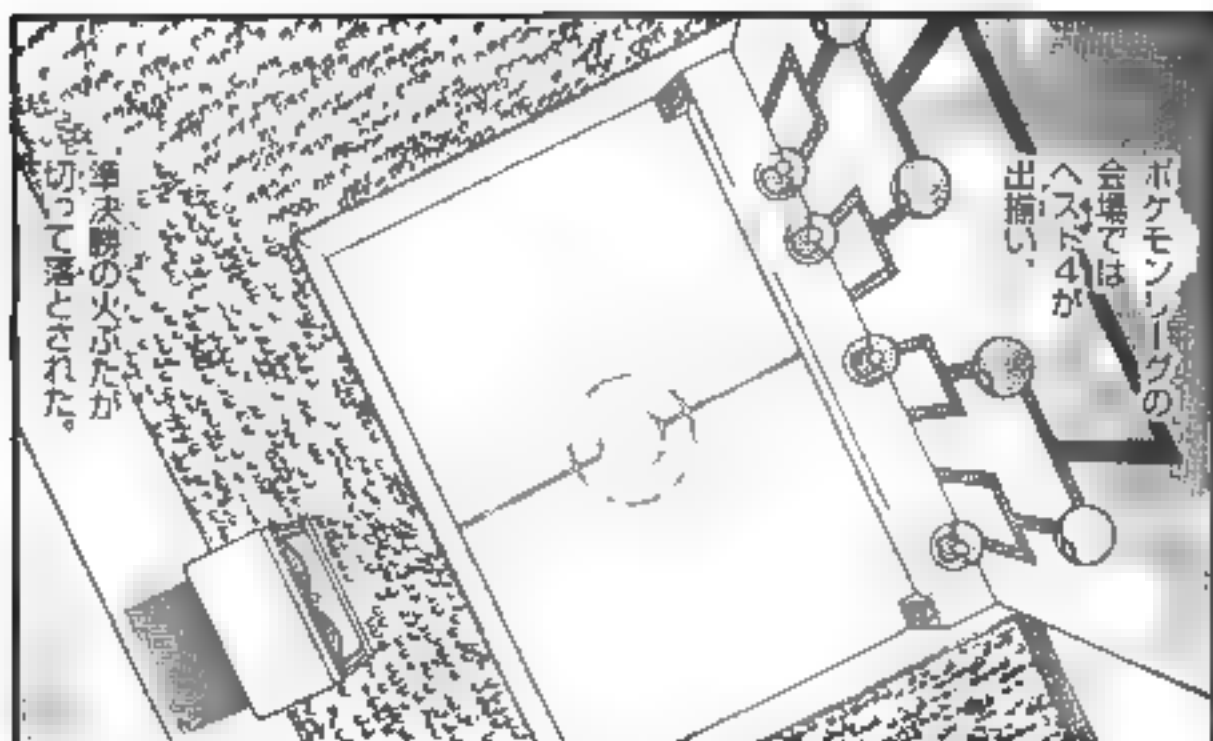
手を合わす価値もない相手とか言っていたのにか？
無論、その考えに変わりはない。

だが、そんなニンゲンほど身のほどをわきまえず、
ポケモンの命をないがしろにする罪をおかすのだ。

ぼ、ぼくはどうすれば？

もちろん、"せいなるつるぎ"を身につけたのなら、おまえも来るのだ、ケルディオ。

よい機会となろう。
ニンゲンという愚かな生き物をよく見ておけ！

POCKET MONSTERS SPECIAL
The Tenth Chapter
BLACK&WHITE
#516
VSオノンド
ONONDO
「四強（よんきょう）」

ポケモンリーグの会場ではベスト4が出揃い、
準決勝の火ぶたが切って落とされた。

3匹使用のシングルバトル。
1匹でも戦闘不能になれば、即、負けが決まる。

ブラック選手vs.、

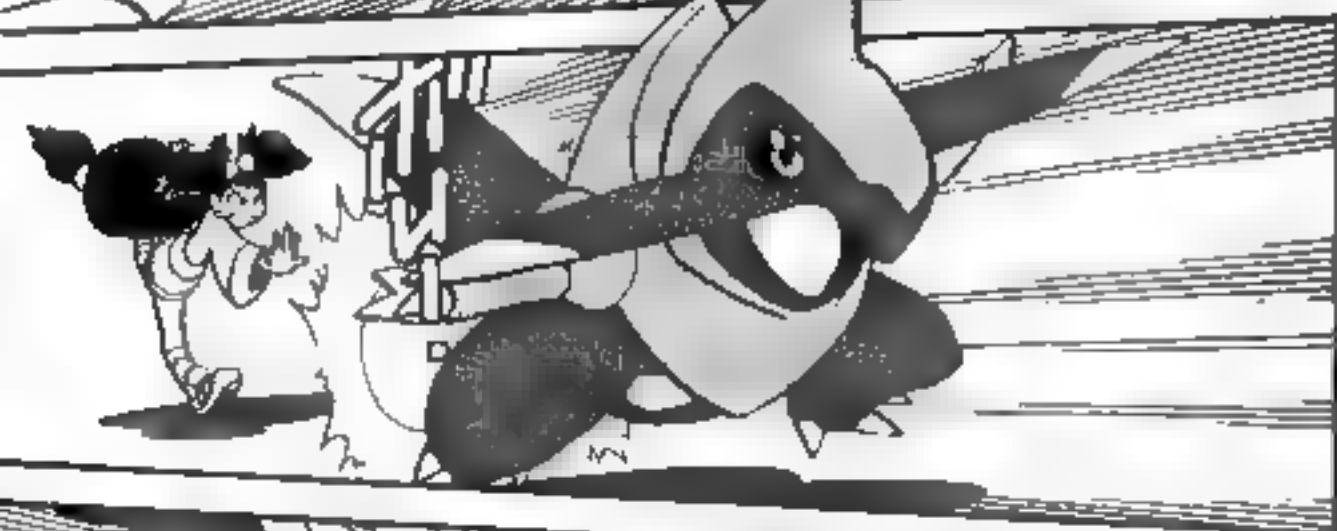
アイリス選手!!

でも、試合となったら
手加減なしだ!!
いくぜ!!

ブラック選手は
ウォーグル
アイリス選手は
オノノクスです!!

アイアンテールが直撃だあ!!
接近戦はマズい! 距離をとれ!!

ひこうタイプのポケモンが距離をとって上空からしかけてくるとすれば、"エアスラッシュ"か"ふきとばし"ね!
それにそなえての訓練はしてる!!

う。

くそ…
手の内を読まれてるな。
ブラックの性格だとしびれを切らしてもう一度接近戦をしかけてくる!!
…ならばウォーー…、
ひっこめえええええ!!

ブレイブバード!!

なんと!、
急降下突撃と見せかけて、低空飛行からの攻撃というテクニックを使ったにもかかわらず、
完全にそれを読んでいたのか!?

それにしたってまっ正面から受けて無事にすむわけねえ!
なにをたくらんでる!?

これよ。

めき めき

オノノクスに
進化しましたーーッ!!

大会もはじまって
強敵たちとの
対戦の連続、
オノンドも
たくさんのバトルを
経験したことだからね、
そろそろのはずだ
と思って、

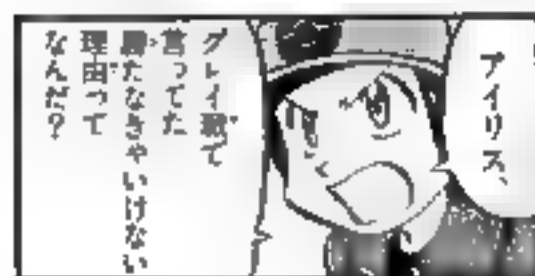
このぶつかりあいに
賭けてみた!!

はっ!!

ヤバい!!
戻れ
ウォー!!
しゅるるる

1匹でも
戦闘不能を出せば
即、敗北という
特殊ルール!!
ブレイブバードで
自分にもダメージを
負ったウォーグル
無防備なまま
首ねっこを押さえ
られていては
さすがに危険!
間一髪でボールに
戻されました!!

だよね！
このルールだと
ムチャできないもんね。
それはあたしも同じ。

やーだもォ!!
あたしに興味わいちゃったワケェ?
あのなァ…

あたしがこのリーグで負けられない理由…
それはね

おじいちゃんのため……!!

おじいちゃんって、
シャガさん!?
アデクさん!?

あれ
何年前だろ
おじいちゃんは故郷である竜の里フスベで
ドラゴンタイプのエキスパートめざして修業してた

でも、力を
なんてゆーか
持てあましてたんだと
思うんだよね。
そんな時、里の長老の
はからいで…。
メイリスや、
おまえのためを思って
指導してくれる人を
呼んだよ。
と、おっしゃってます
指導!?
そんな人いらなァい!!
ふんがノガガ
ノガガがが。
そういうな。
わざわざ
遠い遠い地方から
たずねて来て
くださったんだよ。
と、おっしゃってます。
その娘か…。
なかなか
いい瞳のかがやき
ではないか。

ていねいに
教えていけば
さっと。
だれだか
知らないけど
追い返してやるぅ!!
ほう。

おつかれさま。
申しおくれましたけど、こちらはイッシュ地方でドラゴンタイプを司るソウリュウシティのジムリーダー、シャガ様です。
ノノガガガフガふ
いかがですかな、アイリスは? お目にかなうようなら ひとつお預けしたいのですが。
シャガ様もゆくゆくはソウリュウのジムリーダーの後継者にと。
ちょ、ちょっと……!!
勝手に話を進めないでよ～!!

ジムリーダー!? バカにしないでよね!!

そんなの、あんたらに指導されなくたって簡単になれるもんね!!
ううん!! あたしだったら チャンピオンに だって なっちゃうわよ!!

ほとんど勢のいきおいだったし
相手をただ困らせようとして言っただけだったし
ふつうだったらだだっ子のたわ言でかたづけちゃうよね
でも・・
もう!!ここまで連れてく気なのよォ!!
チャンピオンを目指すというのなら、
会っておいた方がいい。
おう!!
シャガではないか!!
遠き竜の里より連れてまいりましたアイリスです。
ゆくゆくはチャンピオンになると本人は申してます。
なんと
わしを倒しに来たというわけだな?
あ、あたしはアンタなんかに用はない。

むく!!

とりあえず、人を呼ぶ時「アンタ」はいけないいな。

だったら なんて呼べば いいのよ!?

じゃあ おじいちゃんと呼べ!

む。

だったら、わたしも おじいちゃんですな。

あ あの どっちも おじいちゃん だと、ややこし くない?

そうだな、だったら わしは ゲンク おじいちゃん!

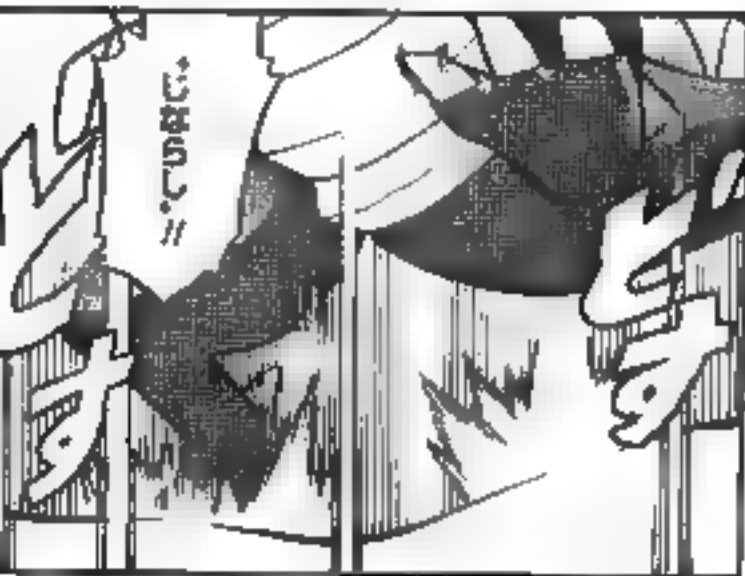
わたしは シャリ おじいちゃん と呼びなさい。

それですっかり毒気を ぬかれちゃった。

2人ともあたしを 子どもだからって バカにしなかった、 本気で相手してくれる って思ったんだ。

生まれてはじめて 好きになれた、 尊敬できた オトナたちなんだ!

でもNは
プラズマ団のNは
おじいちゃんを
ただ負かした
だけじゃない。
おじいちゃんを
おとしめ
ふみにじった!!
わかったぜ、
アイリス。
おまえ、
この大会で優勝して
チャンピオンに
なった上で、
Nと戦い、
勝とうって
いうんだな?
あたしは
くやしいんだ!
絶対、
許さない!!
それがあたしの
負けられない理由!!
ブラック!
たとえ
あなたが相手でも
負けられない理由!!

すげえ気迫！
チュラの体力がどんどん削られる！
ゴーラ！おまえだ！
戻れ！

ガ
ガ
ガ
ガ
大ダメージを
くらっちまった!!
ゴーラには
効果抜群の技!!
特性が「ハード
ロック」で
助かったぜ。
少しでも
体力の減りを
少なくできる!
「ハードロック」?
だったら…、
「かたやぶり」の
オノノクスに
もう一度交代よ!!

鉄を切りつけても刃こぼれしないキバか…!!
だが…!

オレのゴーラだって、鉄骨をかみ砕いて食べちゃうんだぜ!!

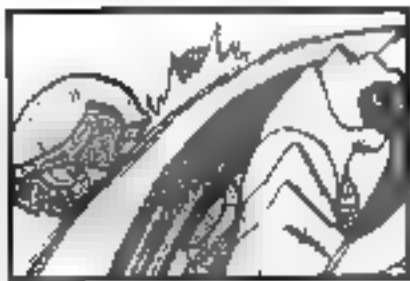
へへ、おやもポケモンも似たもん同士の対決ってワケか!

この大会、負けられないのはオレだっていっしょさ!!
優勝したい!! ずっとそれだけを願ってここまで来たんだ!!

したい育士の戦いで、
オレたちが気持ちで負けることはありえねえ!!
!!
捕まえたぜ!!
ゴーラ

れ゛いとうビームッ!!

オノノクス
戦闘不能ーーッ!!

アイリス選手
敗れましたーッ!!
ブラック選手の
勝利です!!

ゴメンね
アデクおじいちゃん
負けちゃった。
アイリス、ひとつ忘れてねえか？
オレとおまえ、似たもの同士だって言ったよな。
チャンピオンになりたいってのも同じなら、
Nを倒したいってのも、
同じだぜ。

オレは
チャンピオンを
超えることが
目標だった。
そのチャンピオンを
Nが超えた。
だったら、
オレの次の目標は
Nを超えることだ。

アイリス、
おまえの願いも
オレが
引き継ぐぜ。

Nは、

オレが倒す!!

POCKET MONSTERS SPECIAL
The Tenth Chapter
BLACK&WHITE
#517
VSオーベム
ONBEM
「鳴動」
めい どう

すごいですー！
ブラックさん、アイリスさんを破って決勝進出ですー！
次の試合の勝者、フードマン選手かチェレン選手のどちらかが、
ブラックさんと優勝を争うことになるんですね。

あと一歩で「ゆめ」の研究が完成するのよ！このチャンス逃す手はないわ！
ないのです!!

やれやれ。
アララギ。あんただってカノコの研究室留守にしてていいの？

あ、それはだいじょうぶ。助手になったベルが留守を守ってくれてるから。

父はプラズマ団の動きを見張るのもかねて、どこかでリーグを観戦中。
それから、ホワイトちゃんはハチクさんの指示で情報収集中。

彼女、ポケモンタレント事務所の社長さんなんでしょ？
ええ、でも、
彼女、バトルサブウェイで修行したり、伝説のポケモンに遭遇したり、けっこうな修羅場をくぐり抜けてきてるのよ。

結果的に彼女がポケモン図鑑所有者になって心強いわ。

頼りにしてるわよ、ホワイトちゃん。

いた！

トーナメント出場者はカプセルの中で待機し、ほかの選手と話すことも許されない。
でも、敗退した選手はもう自由…

どうしても彼にシズイ選手に話を聞かなきゃ！だって彼は…

アタシたちが怪しいとにらんだあの…
フードマンと戦った人なんだもの！

お願い、どろしー！なんしー！
ボム
うまくきっかけを作って!!
ボム

おタ

ぺとっ
お。
お。

パァァァ

よかった！元気になって!!アタシのポケモンたちが心配しちゃって、、
おはんのポケモンかい？

ハイ！ママンボウの粘膜には傷を治す特殊な力があるので、お役に立てるかと思って。
ああ、よかよか！

小芝居せんてよかけん、
用件はなんじゃっか？

あはっ・
やっぱりバレちゃいます？

あたりまえじゃ！
わざわざおいの喜びそうなポケモンで心開かそうとして・・
まあでも、おはんは悪か人ではなさそうじゃっ

アタシはホワイトと言います。
フードマンの情報を集めてます。

試合で手を合わせたあなたならなにか感じたかもしれない。
そう思って近づきました。

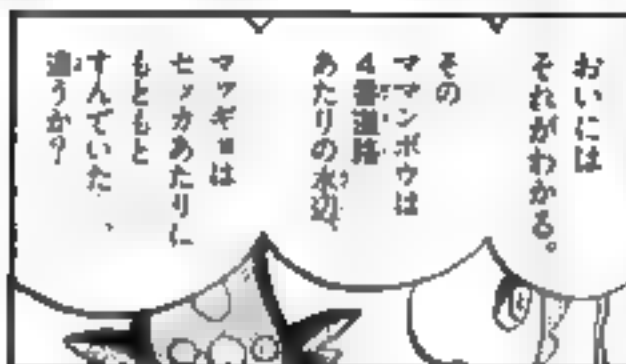
われわれのほかにも怪しい者を調べているのか？

これまた正直じゃの!
感心感心!! コソコソしとってもよかこつなかけんな!
おいの話でよけりゃ教えてやるったい。
ありがとうございます!
ペコッ

じゃっどん、なにか特別なことはあったかいのう?
眠っとって気づいたことが…。

そうじゃ。アイツ、たぶん、
バッジ8つ集めとらんのにここに来とる。

ええええええええ!!

海にも川にも、水にはその場所特有のニオイがあるんじゃ。
もちろんそこにすむポケモンにも。
おいにはそれがわかる。
そのママンボウは4番道路あたりの水辺、
マッギョはセッカあたりにもともとすんでいた、
違うか?

あ、当たってます。

バッジチェックゲートの途中にも水辺があった。トライバッジをチェックして門をぬけたあとじゃ。

バッジを8つとった選手なら、かならずそこを通っとるはずじゃ。

ほかの出場者からはかすかにじゃがその水のニオイがした。

じゃが、フードマンからはそれがまったくしなかった……。

そ、それじゃインチキじゃないですか!!
出場資格もないのにベスト4まで進出して!

主催者に知らせないと……。

その一方で、戦いはじゅうぶん実力のともなったもんじゃった。

なーんも
ズルをせん。
正せい堂どうと
戦って
おいは完敗した。
だから、おいは
悔いなく
セイガイハに帰れる。

ま、
ちっちゃか
情報じゃ。
ニオイの件は
なにか事情が
あるのかも
しれなか。

それより、
おいが怪しく
感じたのは…

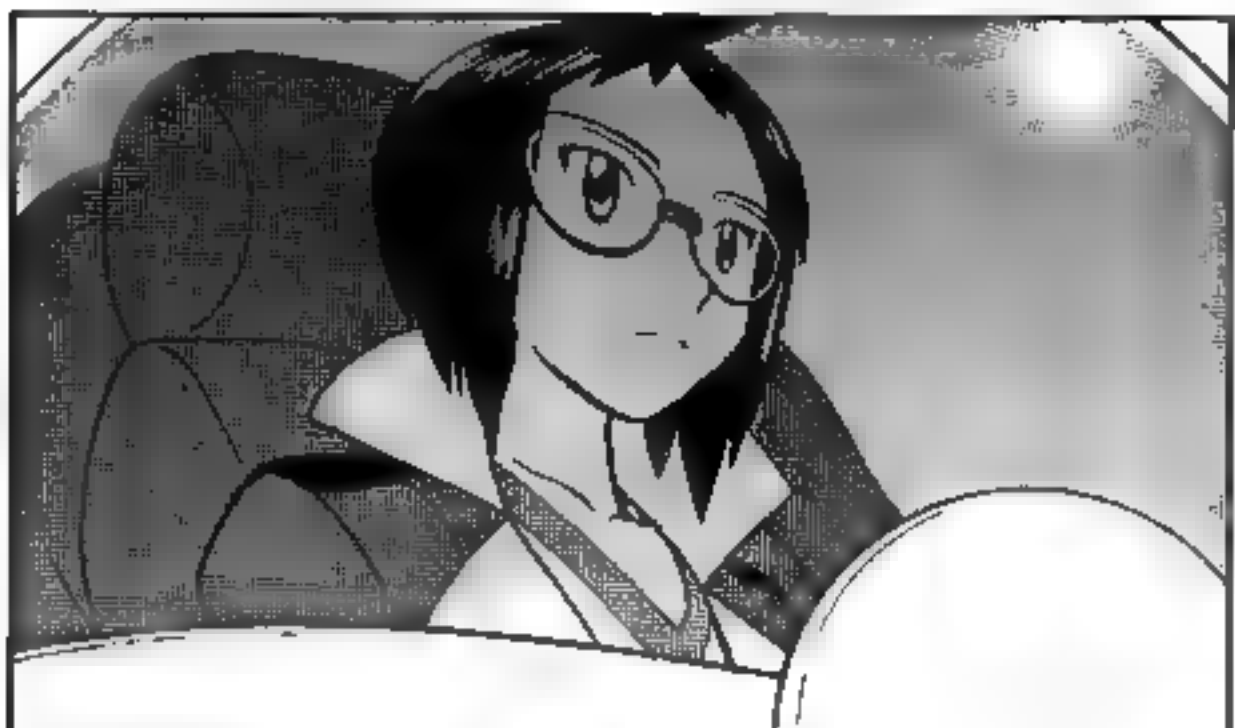
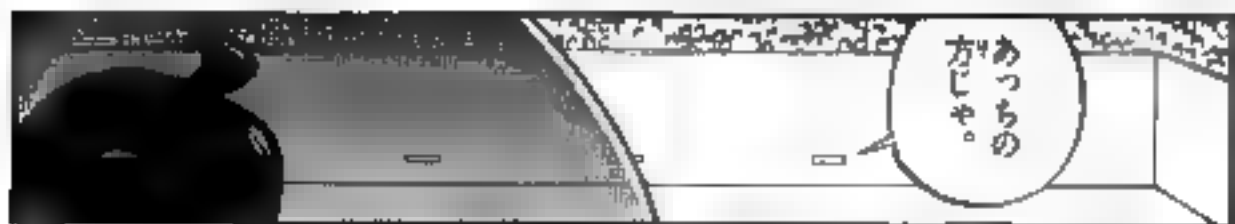
あっちの
方じゃ。

試合開始!!

始まったな。
アララギ博士。

この試合で
勝ったほうが
ブラックくんと
優勝を争う…か。
ええ。

ブラックくんは
幼なじみの
チェレンくんと
戦うことを
望んでるのかな…。
ね?
ゆにぼう。

でも…、
シズイさんが
言った
あの言葉。

おいは
アイツのほうが
怪しく感じよう。

なにかに強く心を
捕われている、

そんな感じが
するんじゃ。

どういうことなんだろう?

戻れ、
ガントル！

行け、
ツタージャ!!

チエレンの
旅立ちの1匹だ！

だが

ツタージャ！

まだ、ツタージャ!?

最後にチェレンに
会ったのは
「れいとうコンテナ」
で戦ったときだ。
あの時すでに
よく鍛えてあった。
順当にジャノビー、
ジャローダと進化してて
いいはずなのに・

あのあと
育てて
なかったのか!?

でも、
闘志は
じゅうぶんだし、
この気迫なら…!!

がんばれ
がんばれ
チェーレーン!!
負けるな
負けるな
チェーレーン!!

あの、ベタシ選手でしたよね?
どうしてチュレン選手の応援を?
シュ…シュシュシュ…シュポッ…
シュポ――――ッ!!
ゆ、許してくんろォォォ!!
ごめんしてけれ! オラ…、オラ
女の人とどうやってしゃべったらええがわがんねえだす。
どこ見ていいがもわがんねぇ
オ、オラが応援してたのは、
ただ勝ってほすかっただけだす。
オラを倒したからには、
負けねえで優勝すてほしい。そう思って…。

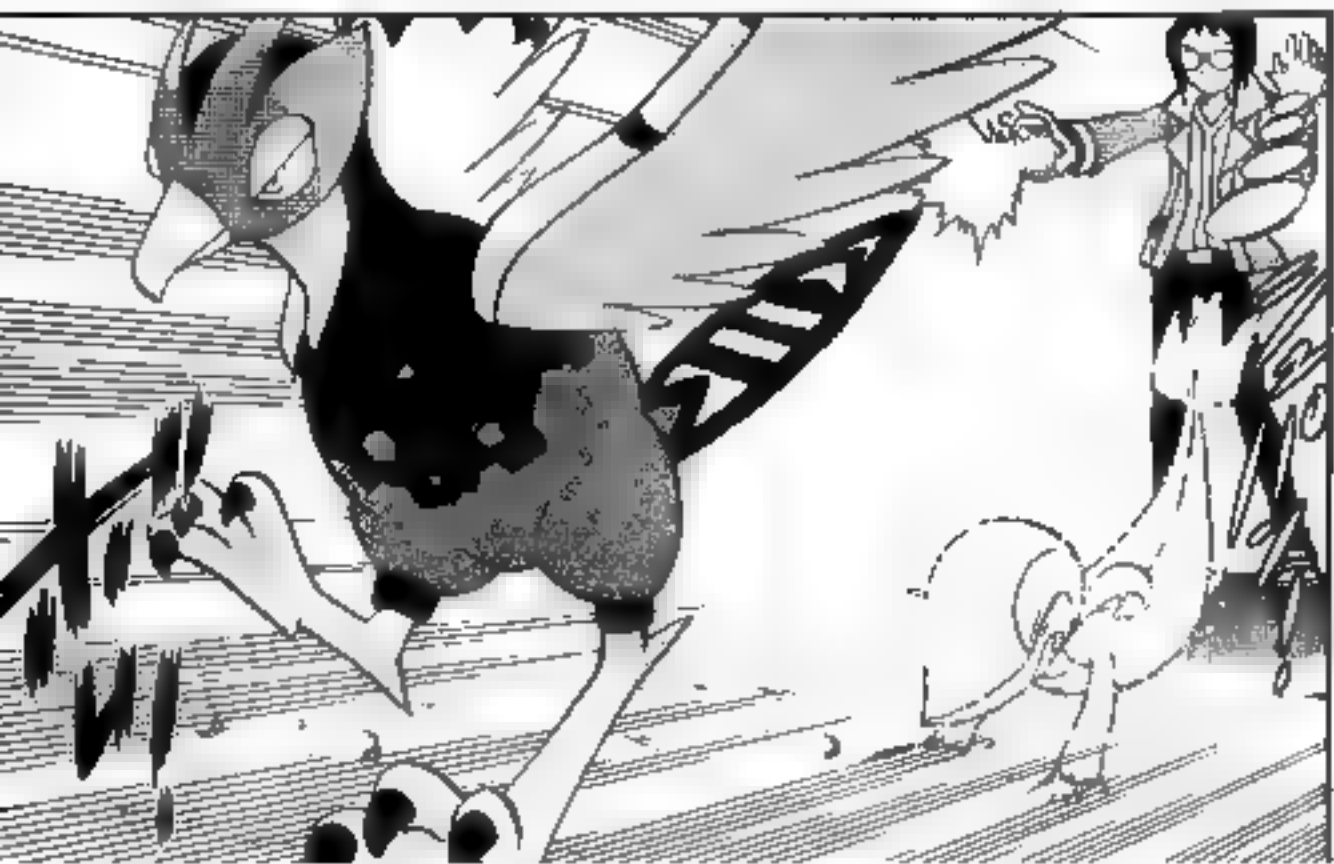
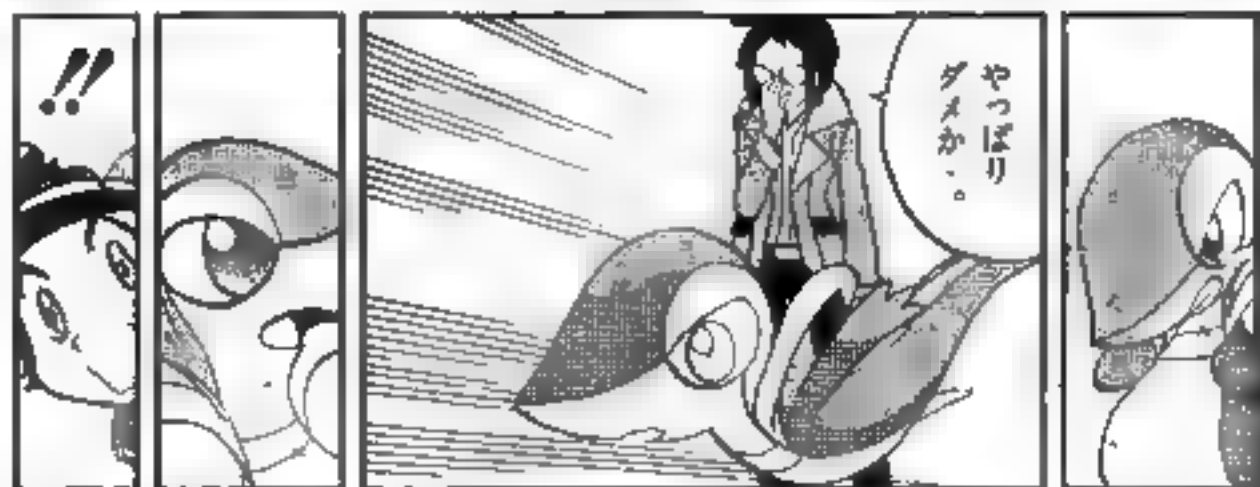
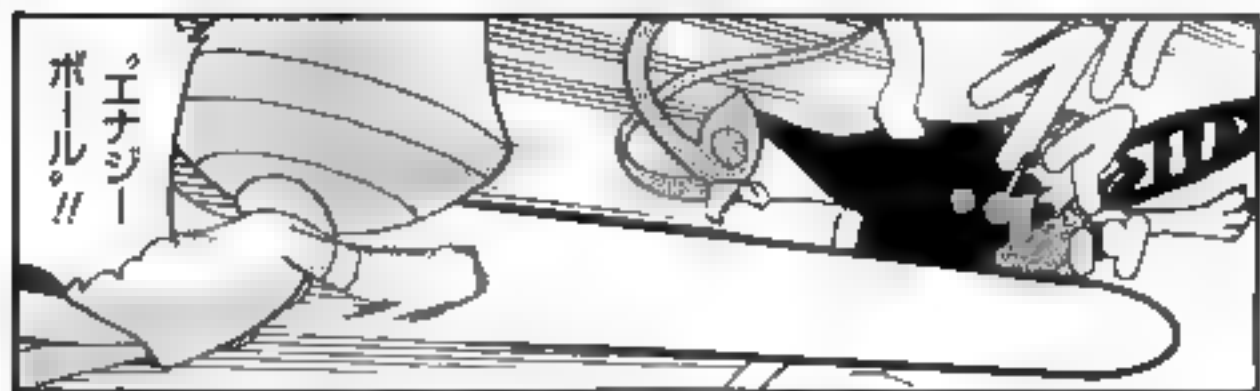
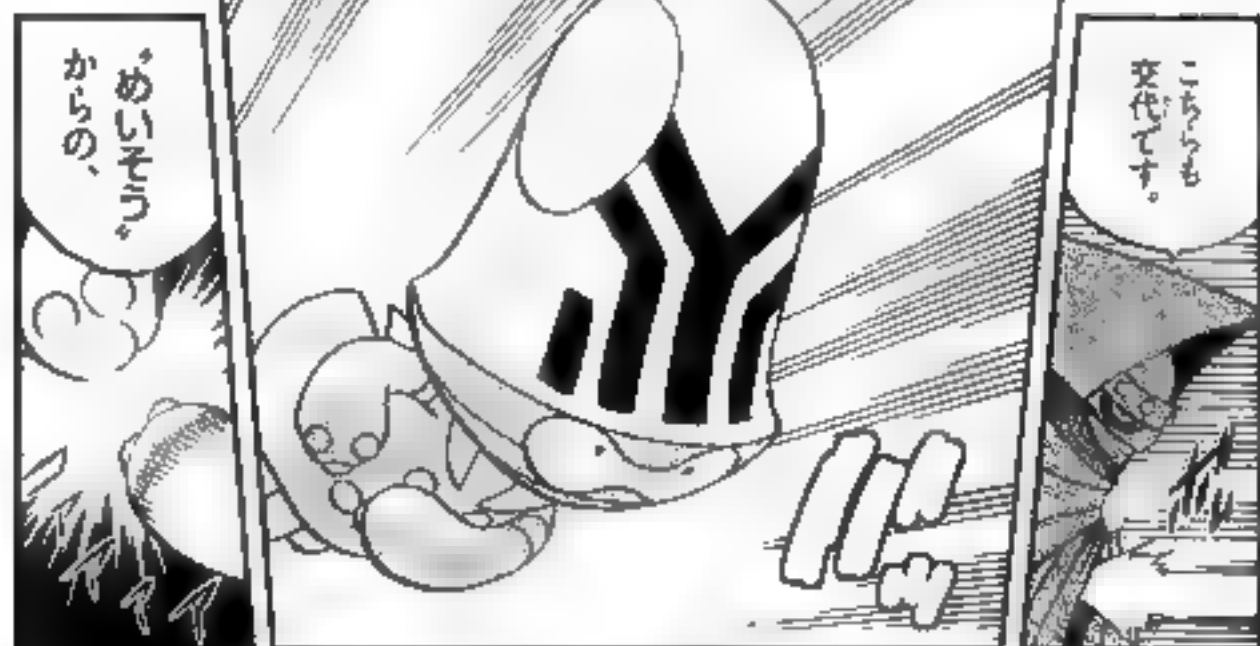
!!
やっぱりダメか…。

こちらも交代です。

〝めいそう〟からの、

〝エナジーボール〟!!

オラを負かしたタメなしで撃つ〝ゴッドバード〟!?

違うわ!!

とんぼがえり・!!
オ、オヘム、
戦闘不能ーー!!
チェレン選手勝利ーーッ!!
すでに決勝進出を決めているブラック選手と優勝を争うのは、
チェレン選手に決まりました!!

挑戦者を、むかえる場所で…。

チエレン!!

応援してくれた人に
なんだよ、
その態度は!!

今の戦いの中盤、どう考えてもあそこはツタージャで押すとこだぜ！
相性とかじゃなくて気持ちのことだ!!
ツタージャはもっと戦いたそうに、くやしそうにしてたぜ！まだまだ闘志に満ちてたのに！
そもそもここに来るまでツタージャのまま育ててねえってどういうつもりだ!!
……。
大きなお世話だ。
なっ…！
なんだとオオ!!
チェレン、てめえ…。
ブラック。

声援、応援に意味なんてない。
なぜなら、
それをされたからといって強くなれるわけでもないだろ?

ツタージャのことも同じだ。
成長が期待できなかったので育てなかった。
出してみて弱かったので引っこめた。

な、なに言ってんだ?
どうしちまったんだよ、チェレン。

どうしたもこうしたもない。
ぼくは自分の求めるものに気づいただけだ。

周りに気をつかい、押し殺していたぼくの本当にほしかったものに。
それは…!

「動き」だ。
チェレエエン!!

しょ、両選手、やめてください！
決勝は30分後です!!
イヤだ！
今、戦う!!

オレの幼なじみが、
親友がおかしくなっちまったのに30分も待ってられるかよ!!

オレたちを、
戦わせろォォォ!!

聞こえないか？

このはるか地の底からつき上げてくるような、

…鳴動を!!

ADVENTURE MAP

ブオウ
エンブオー
とくせい もうか

ウォー
ウォーグル
とくせい ちからずく

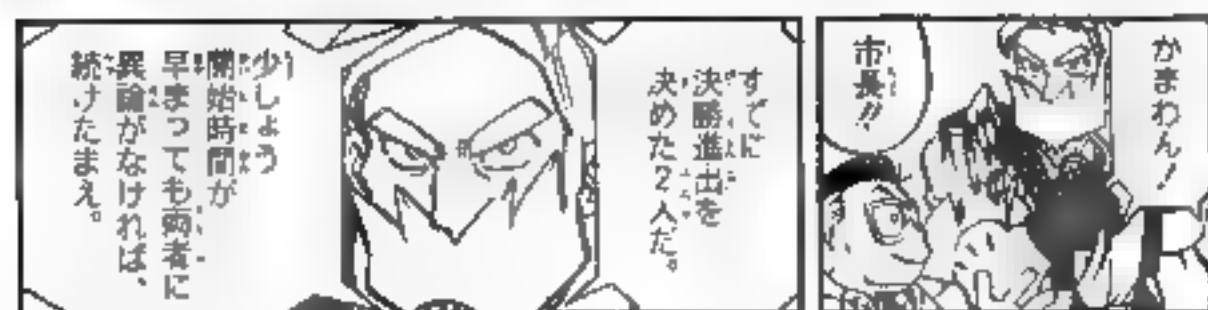
チュラ
デンチュラ
とくせい きんちょうかん

NO DATA

NO DATA

POCKET MONSTERS SPECIAL
The Tenth Chapter
BLACK&WHITE
#518
VSケンホロウ
KENHALLOW
「親友(しんゆう)」

ブラック選手！チェレン選手！ただちにバトルを中止してください!!

決勝戦は30分後です!!やめないと…、えーと、えーと…！

手持ちポケモンの「攻撃力」「防御力」「すばやさ」など、能力をよく知り、

そして対戦相手の情報をよく知った、

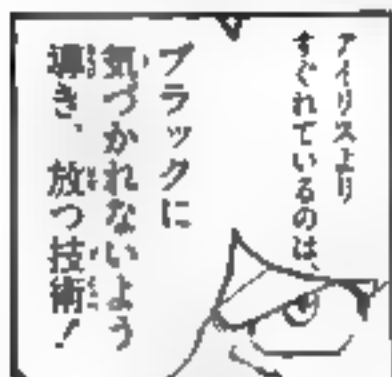
トレーナーの知識・判断・指示。

どうしたことでしょう!!
ギガイアスの苦手な
かくとう技で
押せ押せに見えた
エンブオーの方が
逆にダメージを
負っています!!

!!
準々決勝で
アイリスが
使ってきた
"じならし"か!!

さすが決勝に
残るだけの
ことはある。
見事な
テクニックだ。
は?

エンブオーが
"アームハンマー"や
"かわらわり"を
打ちこむタイミングに
合わせて、
ギガイアスは
足元を小さく
ゆさぶっていたのだ!!

アイリスより
すぐれているのは、
ブラックに
気づかれないよう
導き、放つ技術!

本当に
こいつは
オレがよく
知ってる
チェレン
なのか!?
こんなに
強いヤツ
だったのか!?

わかったか?
ブラック。
能力と
テクニック、
これ以外ないんだ。
「強さ」の
本質は…。

すばらしい！実にすばらしい!!
幼なじみとの友情すら断ちきる冷酷さ!!

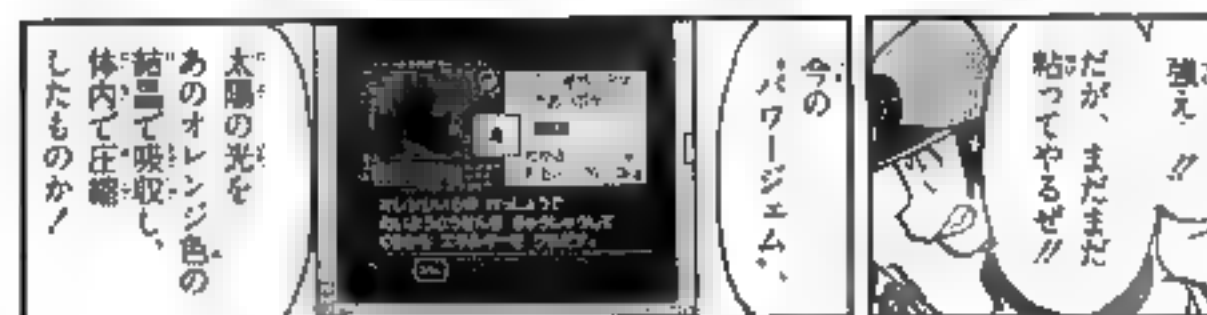
ブルルッ！うう～～、寒い寒い！
凍てつくような心の冷たさよ！！いい、いいぞ！

ポケモンの強さを引き出すのは「冷たき心」。そう言いたげですね!?

どうしたの？ゆにぼう。

あれは!!

フードマンとグレイ選手!!
どういうこと!?
もしかしてあの2人…、なにかつながりが?
行こう!ゆにぼう!
わたしの仮説、信じられないか?
あのチェレンの戦いぶりがすなわち証明になると思うが。
すべては否定しませんが、あくまでいくつもある要素の中の一つでしょうね。
今のところ。
この場にもぐりこませていただいたおかげて、強きトレーナーを間近でたくさん見られました。
彼らはそれぞれにポケモンの強さを引き出す理論を持っている。
自然と調和することで強さを引き出すトレーナー、
極めたいタイプのすべてを知りつくすことが強さにつながると信ずるトレーナー。

もちろん、あなたが唱え、チェレンを使って実証した、
「冷静」というキーワードも認めています。
チェレンを使って実証したって？
あなたたちいったい…。
はぐ!!
立ち聞きはよくないな、お嬢さん。
騒がないでいてもらおうか。この試合が終わるまで、な。
ユニラン、おまえもだ。
こいつら、やっぱり悪人！
ブラックくんに知らせないと…。

パワージェムか…。

エンフォー、地に落ちたァ!!
ついに勝負は決したかァ!?

いや・!!

残った!!
残った残ったァ!!

強え!!
だが、まだまだ粘ってやるぜ!!

今のパワージェム、

太陽の光をあのオレンジ色の結晶で吸収し、体内で圧縮したものか!

ポケモン図鑑…。
そんなもの、まだ持ってたんだな。

そんなものだと!? おまえだってもらうはずだった機械じゃないか!!

もう必要ない。
いや…むしろ。
そんなもの存在してちゃダメなんだ。

それのために人はポケモンをボールに閉じこめるんだ。

いっぱいいっぱい閉じこめるんだ。

その言葉…!!
閉じこめるんだ。

おのれ何者!? "れいとうビーム"!!

!!
なんだ!?

ブラックくん
ブラックくん!!

こいつらはプラズマ団よ!!
そして、チェレンくんになにかしたのも!!

社長!?

気をつけて…。
•テレポート•!!

!!

ヒソカ。
どうなった?
観客に被害は
出てないか?

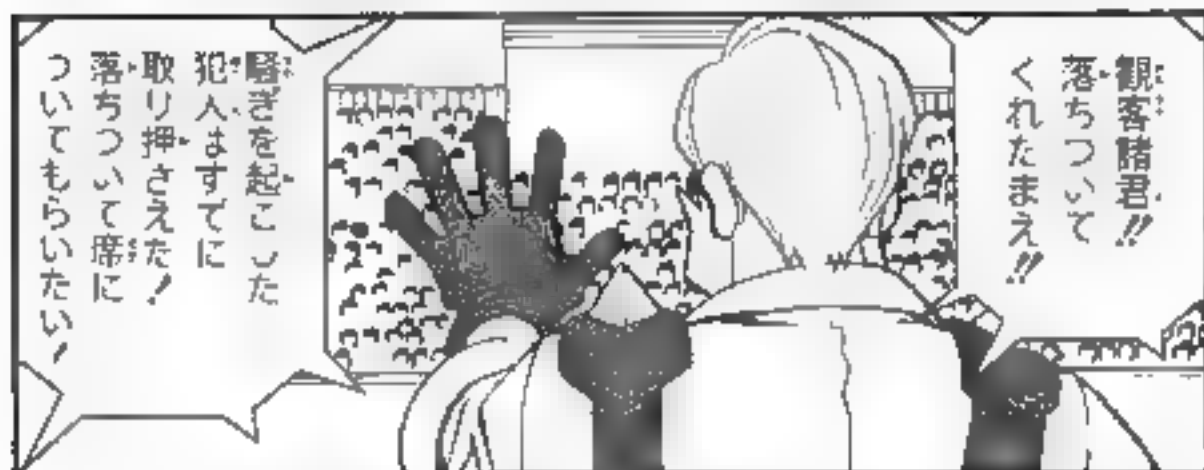
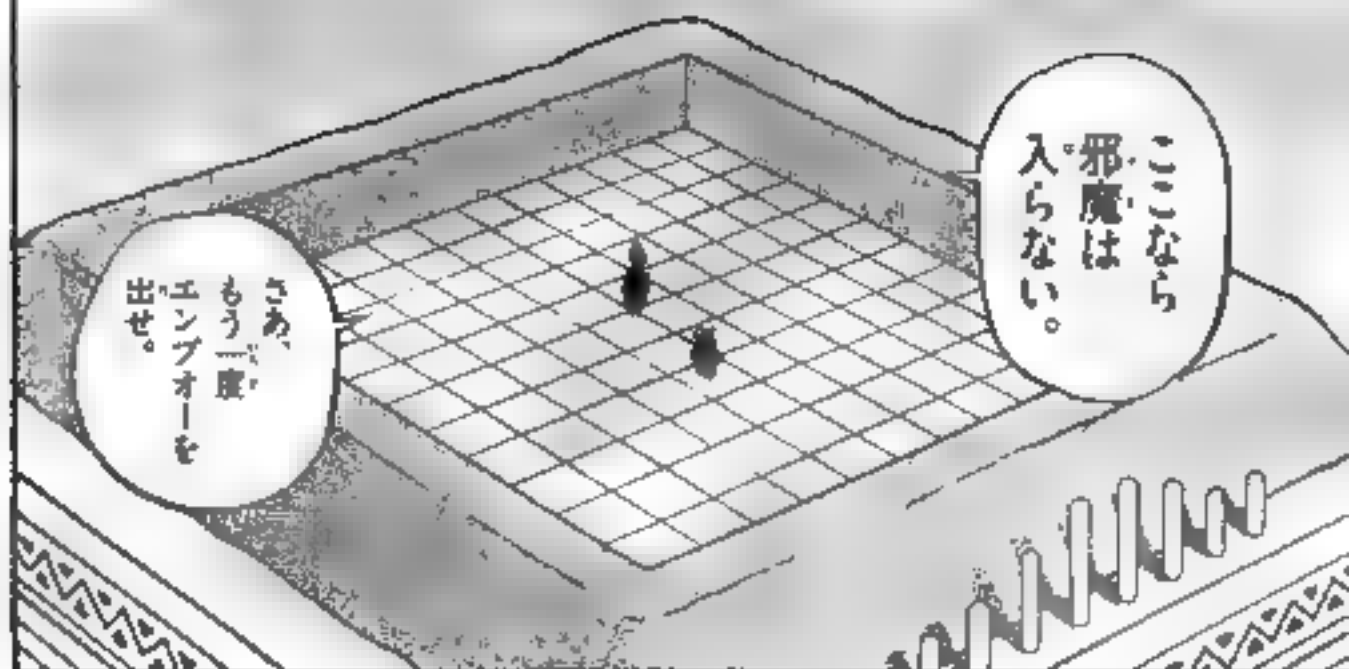
観客は無事です!
技を出した
グレイ選手とフリージオは
すでに拘束されています!!

観客諸君!!
落ちついて
くれたまえ!!
騒ぎを起こした
犯人はすでに
取り押さえた!
落ちついて席に
ついてもらいたい!

シャガさん!
社長が
フードマンに
さらわれた!!
アイツもプラズマ団
なんだ!!
わかっている、
ブラック。
会場からは
逃げられんよう、
各ゲートは封鎖した。

ただし、
彼女の安全が
確認できるまで
決勝戦は中止する。
いいな?
ありがてえ!

認めません。
認める
ものか…。

戦いは続けろ。
なにがあろうと。

ここなら邪魔は入らない。
さあ、もう一度エンブオーを出せ。

チェレン、おまえ…、プラズマ団にあやつられてたのか!?

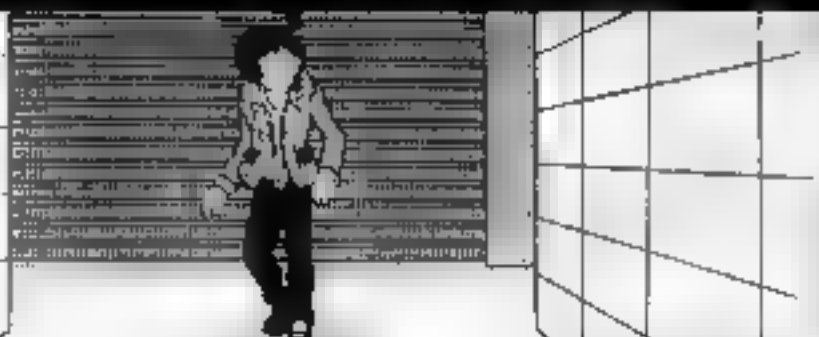
だったら、話が早え。
ボッ
ぶちのめして、目ぇ、覚まさせてやる!!

ボッ
ちがう。
これはぼく自身の意思だ。

覚えているか?ホドモエの倉庫コンテナでキミとタッグで戦ったあの日…。

プラズマ団を撃退したキミは意気ようようとジム戦に向かっていったね…。

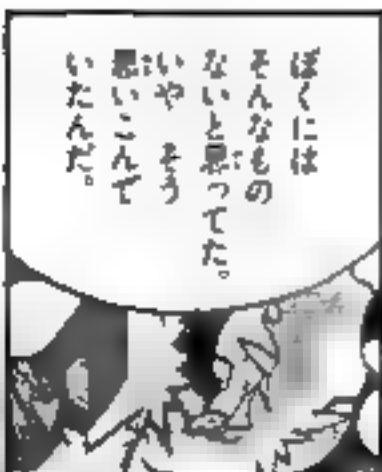
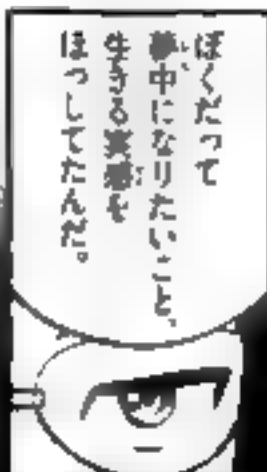
でも ぼくは、
なにか心に引っかかるものをぬぐえなかった。

プラズマ団のことは
ベルやアララギ博士
からも聞いていたし、
ホドモエに来るまでに
演説に出くわすことも
一度や二度じゃなかった
実際に目の前で
自分のポケモンを
解放する人も
たびたび見たよ。
いったい
プラズマ団とは
なんなんだ？
コンテナでなにを
しようとしてたんだ？
そして、王とは？
それが知りたくて、
もう一度
冷凍コンテナへ――
行ってみたんだ。
やはり
来たか。
かならず
戻ってくるんじゃ
ないかと思って、
待っていた。
な、なぜ？

キミが せん細な人 だからだ。
キミの友だちは やたらと叫ぶだけで、 われわれな悪たと 最初から決めて かかっていたが、
キミは少し違う。
われわれの 行動の奥にある 意味を考えようと

くもりのない目で 「真実」を知りたいと 考えている。 すばらしいことだ。

教えてあげよう。 ノノメメ捕とは なんなのか？・を。

バカな!! それで、のこのこ ついていったのか!?

バカ、か。 キミはそう 言うだろうね。
小さい時から 好きなこと、 やりたいことが ハッキリ わかっていて、
その達成のために 周囲をふりまわそうが おかまいなしの キミなら 。

ぼくには
そんなもの
ないと思ってた。
いや もう
思いこんで
いたんだ。
ぼくだって
夢中になりたいこと、
生きる実感を
ほっしてたんだ。
あれを
見た時、
キリ

強さ、
圧倒的な強さ!!

そんな強さが欲しいと思った!

ハッキリ言おう、ブラック!

キミは弱い。
ムンナが去ってしまったのがその証拠だ。

そうかもしれねえな。
そして、おまえがあやつられていないってのもホントみてえだ。

なあ、チェレン。

ちっちゃい頃からおまえにはよくしかられたよな?
なにかってえとすぐ説教してきたよな?
でも、ありがたかったぜ。

やってみろ。

おまえの言う「強さ」が「真実」なら、オレに勝ってみろ。

なんだ、あのピンクの雲は!?
いや、煙か!?
太陽を隠してしまうほどの煙
これでは日光を吸収できない!!
あれは…。
そっくりです、お姉ちゃん!分析中だったこれとそっくりです!
ゆめのけむり。
戻れギガイアス!
ケンホロウ!!
こっちもだ!ウォー!!
ゴッドバード!!

おお!!
これは、
ケンホロウ
戦闘不能です!!
やや!
眠ってます。
2人とも…。
チェレン、
見えてるか?
これ夢の中だぜ。
見えてる。
9年前の
ぼくたちだ…。
ふしぎだな。
2人同じ夢を
見てるなんて。

へへへ。
オレのゆめ
ポケモンリーグ
ゆうしょう

じゃあ、
ぼくは…。

ずっと変わらない…、

「真実」だからな。

ピー

おかえり。

ムシャ。

出てこい!

〈ポケットモンスタースペシャル第50巻おわり 第51巻へつづく〉

TO BE
CONTINUED

次巻予告!!!
理想とは?
真実とは?
イッシュの伝説をめぐる戦い
ついに完結!!!
ゴォォ
POCKET MONSTERS SP
ポケット モンスタースペシャル
第51巻

壮大なるポケモンサーガ!!

ポケットモンスター 19

ポケットモンスター 50

超人気 発売中!!

希望と絶望が同時にやってきました――。

カロス地方、
アサメタウン。
主人公は部屋に
こもりきりの
ひねくれた少年…

エックス!!

伝説の2匹！
怪しい組織
「赤スーツの一団」！
そして腕の
リング…!!
謎が謎を呼ぶ事件をへて
友情で結ばれた5人が故郷を旅立つ――!!!
Tentomusi CORO CORO COMICS
ポケットモンスターSPECIAL
X・Y
第1巻
2014年4月28日発売!!!

てんとう虫コミックススペシャル　「コロコロイチバン！」「ポケモンファン」連載作品

ポケットモンスタースペシャル 50

2014年3月30日　初版　第1刷発行　（検印廃止）

シナリオ　日下秀憲
まんが　山本サトシ

発行者　佐上靖之
印刷所　三晃印刷株式会社

PRINTED IN JAPAN

発行所　（〒101-8001）東京都千代田区一ツ橋2の3の1
TEL　編集 03(3230)5445
販売 03(5281)3556

株式会社 小学館

ISBN978-4-09-141708-4

本文デザイン／瀬川真由美・鈴木 朋・設楽 満
編集協力／長澤優美子・唐木田ひろみ　編集担当／村田直人